

SABBATH SCHOOL BIBLE STUDY GUIDE

安息日学校聖書研究ガイド

アドベンチスト 信仰の柱



2001

3

安息日学校の目標

- み言葉の学び
- 信仰の成長
- 温かい交わり
- 本気で伝道



※上記の目標をもとに、各教会の必要に合う安息日学校の目標を立ててください。

編集長からのメッセージ

チェコの作家フランツ・カフカはその短編小説『変身』の中で、一夜にして巨大な「黄金虫」に変身してしまった男について記しています。彼はこの小説の中で、いわゆる「同一性の危機」(アイデンティティ・クライシス)について論じようとしたのでした。

今期の聖書研究ガイド『アドベンチスト信仰の柱』は、セブンスデー・アドベンチストとしての私たちに明白な同一性を与える中心的な教理を扱っています。熱を火から分離することができないように、私たちの同一性をその使命から分離することはできません。私たちのメッセージは、すなわちその使命です。このメッセージを理解することによってのみ、私たちの使命が明らかになります。

クリフォード・ゴールドスタイン

(安息日学校聖書研究ガイド編集長)



序 言

アドベンチスト信仰の柱

私たちの教会は、キリストがまもなく来られるという燃えるような聖霊による確信の中で生まれました。アドベンチスト教会は、神がこの世界に最終的な警告を伝えるために民を起こされたという確信から生まれました。それは、黙示録14章の三天使が叫んだ「永遠の福音」のメッセージです。先駆者たちは、神が滅びゆく世界に伝えるための特別なメッセージをこの教会に与えられたという信仰をもって献身してきました。しかし、時代の経過と共に、かつて先駆者たちの魂に熱く燃えていた熱意と献身が失われているように見えます。

今日、私たちの教会の中にも、自分たちはほかの教会とそれほど変わっていないし、変わるべきではない、あるいは独特なメッセージや働きをあまり強調すべきでないと考える人たちがいます。

その一方で、神がセブンスデー・アドベンチスト教会を立てられたのは、単にもう一つの教派を立てるためではなく、世界に伝える何か異なったもの、優れたものを私たちに与えておられるからであると信じる人たちもたくさんいます。もしそうでないなら、私たちの存在する意味がありません。

神が私たちに与えておられるのはアドベンチストに独自の、きわめて重要な真理です。私たちがルーテル教会、聖公会、バプテスト教会、メソジスト教会の信者でなく、アドベンチスト教会の信者、セブンスデー・アドベンチストであるのはこれらの真理のゆえです。もっともこれらの真理のすべてがアドベンチストに特有のものというわけではありません。しかし、いわゆる「現代の真理」という背景の中で総合的に考えるなら、これらの真理はほかに教えている人のいない独特なメッセージで、私たちの存在理由はここにあります。

今期は、私たちを独特な民としている独特な聖書教理について学びます。キリストはそれぞれの教理の中心です。十字架、聖所、キリストの大祭司としての働き、三天使の使命、調査審判、裁き、再臨などはみな相互に関連した真理です。これらをキリストの光に照らして理解するとき、私たちは自分が何者であって、この終わりの時代にあって何をすべきかがわかります。私たちは主イエスの輝かしい再臨を待ち望んでいます。

ジョエル・マスボスピ
(東アフリカ支部牧師会長)

※今期のテキストの翻訳は教団翻訳部、抄訳、適用、並びにミニガイドは曾根田健二先生が、校閲、校正は出版編集部、最終校閲を安息日学校協力牧師並びに教団安息日学校部が担当しました。

解 説

SDAには「教義」はない

教義 (dogma)^{ドグマ}は狭い意味で、教会会議などで公式に制定された権威に基づく教会の教えであることから絶対とされて、教義に対して信仰者には自由がありません。**教理** (doctrine)^{ドクトリン}は広い意味で聖書全体が啓示する教えの体系化と言えます。

SDAの先駆者たちは、歴史的キリスト教会が教義を至高とする (dogmatism)^{ドグマティズム} 過ちを犯してきた事実から、“教会の信条”を持つことを望みませんでした。彼らは独自の教義を持つことを選ばず、「聖書」を信仰と実践の規準とする広く自由な立場を採り、以来わが教会は一貫してこの姿勢を守ってきました。

SDA—27の基本教理

世界総会はSDAが何を信じているのかを公に明らかにする目的で27項目の「信仰の概要」を採択しました。これを基にしてバプテスマの誓約があり、私どもの信仰告白としています。キリスト教といえどどの教派にも共通する主要な信仰の中核となる柱があります。それらは三位一体の神、救い主イエス・キリストによる救い、神の言葉としての聖書などです。また多くの教派がある中で、SDAは終末の時代に伝えるべき預言的使命を持つキリスト教会としての特徴的教理があります。今期はキリスト教信仰を前提とした上で、教会のユニークな教理を勉強することになっています。「信仰の概要」27項目は大事な真理の鎖ではありますが、そこにはキリスト教信仰の中心となる主要教理、SDAとしての特徴的教理、また信仰の実践部分の項目も含まれています。軽重で区別はしないものの、真理の勉強にあたって注意深く学びましょう。

私たちは他教会との差を学ぶというのではなく、信仰の先輩たちが掲げてきた特徴的な真理をさらに深く理解し、いかに現代の人たちに賢明に伝達すべきかを学びたいと思います。日本はキリスト教については残念ながら後進国で、神、聖書、キリスト、福音といった主要なキリスト教信仰さえも理解していません。この国で信仰に導かれたアドベンチスト信徒として正しく聖書の福音を広く同胞に伝達し、日本のアドベンチストとしての責任を果たしたいと思います。フィリピン、韓国、南米のようなキリスト教先進国ではSDA特殊教理の伝達でキリスト教

徒からの改宗を多く得ていますが、日本のSDAは信仰の重要な柱が何であるかの確認と、提示の順序と方法を大切にしたいと思います。

SDA と他教派との違い

（「SDA 教理への質問」SDA 牧師会発行、1957、参照）

歴史的プロテスタント信条、他教会と信仰を同じくする教理：神、キリストの神性、受肉、十字架の死、復活、再臨、贖^{あがな}い、信仰義認、新生、きよめ、義人の復活、裁き、宣教

他教会と多少意見が異なる教理：十戒の永遠性、バプテスマ、死の状態、第7日目安息日、字義的創造、什一献金、歴史的預言解釈、酒、タバコについて、洗足式

アドベンチスト特有の教理：聖所と裁き、預言の賜物、獣の印、三天使の使命

ロバート・マックレバー（アボンデール大学神学部教授）はアドベンチストと他のクリスチャンとの違いについて、

- （1）SDAは聖書を重んじる保守的教会であり、自由主義のリベラルではない（処女降誕と復活、聖書の靈感、創造、奇跡などを信じる）
 - （2）SDA は救いの個人性を強調する（団体としてでなく、キリストへの個人的信仰による救いを信じる）
 - （3）SDA は終末の近いことを信じる
 - （4）SDA は神学と実践のいずれも大切にする
- と述べています（『レビュー』誌、1994年9月15日）。

真の信仰者であるためには正しい教理の把握が必要です。これなくして健全な信仰はありえません。ところが教理が私たちを救うということはなく、ましてSDAに属していることが自動的に救いの保証ということもありません。信仰には実践が伴います。神学を理解しても兄弟を愛せないなら空しい、とパウロは言いました（1コリ13：1～3）。

聖書の真理を正しく学び、同時に、生活においてキリストの信仰に生きる誠実なキリスト者を目指したいものです。

目 次

アドベンチスト信仰の柱

序 言	2
第1課 主は我らの義	7月7日 ... 6
第2課 安息日	7月14日 ... 14
第3課 安息日は神との関係のしるし	7月21日 ... 22
第4課 安息日をきよく守る	7月28日 ... 30
第5課 第一天使のメッセージ	8月4日 ... 38
第6課 忠誠が試される時	8月11日 ... 46
第7課 神の賜物としての不死	8月18日 ... 54
第8課 地上の聖所——その光と影	8月25日 ... 62
第9課 天の聖所	9月1日 ... 70
第10課 神の裁きの時	9月8日 ... 78
第11課 残りの民	9月15日 ... 86
第12課 終わりの時	9月22日 ... 94
第13課 見よ、彼は来られる	9月29日 ... 102



第1課

7月7日

主は我らの義

● 暗唱聖句 ●

「その名は『主はわれわれの正義』ととなえられる」

(エレミヤ 23 : 6、口語訳)

「彼の名は、『主は我らの救い』と呼ばれる」

(エレミヤ 23 : 16、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

6月30日

恵みとはなんのでしょうか？ 信仰とどのように関連しますか？ どのように信仰を得るのでしょうか？ 信仰義認の意味は？ クリスチャン生活の中で行いはどんな役割をするのでしょうか？

今週のガイドはこうした重要な問題についての解答を見いだす助けとなります。

柱の基礎 聖書の真理は人格的なもので、私たちをある人格に結び付けます (ヨハ 17 : 3)。アドベンチスト信仰の中心・中核はイエス・キリストです。このお方との信頼に満ちた、愛と服従に基づいた関係に入り、それを維持することが信仰生活の本質です。

イエスは単なるアドベンチスト信仰の柱の一つではなく、柱の基礎そのものです。イエスという基礎がなければ、信仰の柱はそれ自体いかに堅固であっても、時代、文化、流行などの変化によって崩れ、流されてしまう、もろい砂のようなものです。そのような柱は倒れるしかありません。

私たちはセブンスデー・アドベンチスト教会の特徴的教えを復習することにより、キリストとの関係を強化する必要があります。今期の研究は「主は我らの義」(エレ 23 : 6) というテーマで始まっていますが、キリストこそは私のための罪の身代わり、義そのもの、救いであることを学びます。キリストが信仰の基礎、本質なのです。

日曜日

恵みは神の主導

7月1日

問1 ローマ3:24、4:16を読んで神の恵みを定義してください。

NOTE

恵みは「功績によらない恩恵」です。それは神の愛から出る属性で、恵みによって神は救いの計画を立てられました。恵みは私たちが求めて得られるものではなく、むしろ分不相応の者たちに無償で与えられるものです。

ここが重要です。恵みは私たちに受ける資格があって受けるものではありません。受ける資格が私にあるのなら恵みとは言えません。「恵み」は功績によらないからです。神は率先して受ける資格のない私たちに救いを与えてくださいました。ですから「恵み」と呼ばれ、「福音」の基礎となるのです。

問2 ヨハネ3:16、ローマ3:25、5:6～11、黙示録13:8を読み、聖句に共通しているテーマを示してください。

上記の聖句は表現こそ異なりますが、神が救いを主導されたことを教えています。私たちが神を求めたものではありません。神が私たちを求められたのです。これは特にアダムとエバの墮落後、エデンにおいて予示されていました（創世3:8,9参照）。ふたりが神から隠れようとしたときでさえ、神はふたりを探し求め、恵みを提供されました。責任をほかの者に押し付けようとしたときでも、神の恵みはなお彼らに提供されていました。数千年後の今も、人間の性質は変わっていません。幸いなことに、神の恵みも変わっていません。

「ここに、正義に勝利した愛と、驚くべき恵みがありました。……キリストは反逆した者、罪深い者となり、人間の性質を取り、自らの血を流し、その魂を罪のための捧げ物として捧げることに同意されたのです。天の会議において、人間の罪責が測定され、罪に対する怒りが評価されましたが、それでもキリストは墮落した人類に希望を与えるために、その条件を満たす責任を負う決意を表明しました」（エレン・G・ホワイト『サインズ』1896年3月5日）。

◆ 自分の行いの上に神との関係を築くことが危険なのはなぜですか。

NOTE

全宇宙の中で最も偉大な真理の一つは、墮落した存在である私たちが「信仰によって義とされる」ことです。しかしこのことは、言葉の表現力の不完全さのゆえに誤解されがちです。「信仰によって義とされる」ということは、信仰が私たちが義とするという意味ではありません。信じるという人間の行為そのものは不十分なものです。私たちが神と和解するためには、自分自身のうちにあるものよりも偉大な何かが必要です。

幸いにも私たちは必要なものを与えられています。私たちに帰せられたキリストの完全な義です。信仰とは神がすでに私たちのためになされたことに対する人間の応答です。神はキリストにおいて彼の義を私たちのものとしてくださったのです。スウェーデンの神学者アンデス・ニグレンが言っています。「人の信仰は、福音が彼のうちに働いていることの証拠であると言った方がよい。人の信仰が福音に力を与えるのではない。全く反対に、福音の力が人に信じる力を与えるのである」(『ローマの信徒への手紙注解』71ページ)。

問1 ニグレンが述べた言葉、思想を自分の言葉にして子どもにわかりやすく説明してください。

信仰は私たちが福音を自分のうちに働かせる手段として自らのうちに持っているものではありません。信仰は神から来るもので、それは喜んで神と神の約束を受け入れる人たちの心に働く神の力です。信仰は私たちが神と結びつける重要な力であって、罪人が神の救いにあずかることができるように、神が罪人に与えてくださる賜物です。信仰は私たちがキリストと結びつける、生きた関係であって、私たちが神の御心に近づけてくれます。信仰をもって神に応答するとき、私たちの信仰は成長します。信仰が成長すればさらに神に従うようになります。

◆ エフェソ2:8、9によれば、信仰は神の賜物で神から与えられますが、どうしたらこの信仰を強めることができますか。反対に、どうしたら信仰は弱まるでしょうか。

火曜日

恵みにより、信仰によって救われる

7月3日

問1 恵みと信仰の関係を説明してください。エフェ2:8、9

NOTE

恵みは救いを与えるために罪人に差し伸べられた神の手です。信仰はその神の手をつかもうとする罪人の応答です(アニー・ディラードによれば、私たちは流れ落ちる滝の前でコップを差し出している“こじき”のようなものです)。

16世紀の宗教改革者たちは“神の恵みのみ”(sola gratia^{ソラ グラチア})が救いの根拠であると教えました。つまり、救いは神の恵みによってのみ与えられるということです。彼らによれば、“信仰のみ”(sola fide^{ソラ ファイデ})が、「神の豊かな恵み」(エフェ1:7)によって無償で私たちに提供されている救いを受ける手段です。神は恵みによって私たちに救いを提供し、私たちは信仰によってそれを受けるのです。信仰によって救われるのではありません。キリストの恵みに対する信仰の故に救われるのです。そうでないと信仰が救いの手段、いさおしになってしまいます。

恵みは「単に神の是認にあずかる者たちに対する神の好意であるばかりでなく、罪深い男女に対する神の限りない、包括的な、人を造り変える愛でもあります。イエス・キリストにおいて現されたこの恵みの福音は『救いをもたらす神の力』(ロマ1:16)です。それは単に神の憐れみ、自発的な赦しであるばかりでなく、活動的で、精力的で、人を造り変える救いの力でもあります。このようなわけで、それは人を満たし(ヨハ1:14)、与えられ(ロマ12:3,6)、十分で(IIコリ12:9……)、支配し(ロマ5:21)、教え(テト:11,12)、心を強めるのです(ヘブ13:9)」(『SDA聖書注解』6巻504ページ)。

◆ ある神学者のグループがキリスト教を他の宗教と区別する最大の特徴について熱のこもった議論をしていました。そこにC.S.ルイス(英国のクリスチャン作家)が入ってきました。意見を求められたルイスは即座に答えました。「それは簡単だ。恵みですよ」。あなたはこの答えについてどう考えますか。あなたはこの言葉に賛成ですか、反対ですか？

NOTE

キリストが「わたしたちの救い」として成し遂げてくださったわざを最もよく表している聖句の一つが、エフェソ1:7です。「わたしたちはこの御子において、その血によって^{あがな}贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです」。

この聖句には深い意味があります。第一に、私たちはあがなわれているという事実です。ギリシア語動詞は現在時制になっています。つまり、あがないは将来において実現するものではなく、現在すでに実現しているというのです。私たちは今あがなわれているのです。

問1 救いが将来でなく現在という時制であることを示す聖句があるでしょうか。Ⅰヨハ5:12、13、コロ1:14、ルカ10:20

エフェソ1:7は私たちの現在のあがないについて述べているだけではありません(あがないとは、釈放すること、解放すること、奴隷を買い戻すことを意味します)。それはまた、私たちのあがないがどのようにして達成されたかも明らかにしています。「御子の血によって」です。私たちがあがなわれたのは、自分の行いや服従によってではなく、キリストの血によってです(Ⅰペト1:18、19参照)。キリストの血は私たちを罪の刑罰、つまり永遠の滅びから解放し、あがなうために支払われた身代金でした。

エフェソ1:7は次に、このあがないがどのようなものであるかを説明しています。それは「罪の赦し」です。私たちは罪を犯し、その罪のゆえに神から与えられていた永遠の命を失いました。しかし私たちのために血を流されたイエスのおかげで、すべての罪が赦されました。こうして罪の刑罰に対する代価がすでに払われたゆえに、私たちはあがなわれ、解放されたのです。

最後に、この素晴らしいあがないの源が強調されています。それは、「神の豊かな恵みによるもの」です。すなわち、私たちのうちに働く神の恵みです。

◆ エフェソ1:7は、救いが神のわざによるものであることを強調しています。この聖句は多くの人々が求めている救いの確証についてどんなことを教えていますか。

木曜日

信仰による従順

7月5日

問1 ロマ1:1～5、ヤコ2:14～26を読み、次の語句をどうとらえるかについて考えてください。

- ・信仰のみ、服従は不必要
- ・信仰に導く服従
- ・信仰の結果としての服従

NOTE

ヤコブ2:21 ヤコブが強調しているのは、「アブラハムの行いがその信仰の正しさを証明し、その結果、神によって義とされたということです。パウロと同様に、……ヤコブは信仰を義認の中心に置き、義とされた人々の価値ある行いを引用することによってその力強さを例示しています」(『SDA聖書注解』7巻522ページ)。

宗教改革の“標語”とされたのはローマ1:17でした。「福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです」。

パウロはここで福音の真髄を明らかにしています。信仰はイエスにある私たちの経験の基礎であり、イエスに対する日ごとの応答の基礎です。行いは決して救いの手段ではありませんが、信仰による応答にはいつでも行いが結果として伴います。

「しかし、『あなたには信仰があり、わたしには行いがある』と言う人がいるかもしれません。行いの伴わないあなたの信仰を見せなさい。そうすれば、わたしは行いによって、自分の信仰を見せましょう。あなたは『神は唯一だ』と信じている。結構なことだ。悪霊どももそう信じて、おののいています。ああ、愚かな者よ、行いの伴わない信仰が役に立たない、ということを知りたいのか」(ヤコ2:18～20)。

◆ アーノルドは律法主義的な家庭で育ちました。彼は長年にわたって自分は完全でない、救われるには自分の行いが完全でなければいけないという不安の中で生きてきました。あなたは彼のような人になとえ不完全であり、行いも不完全であっても、『律法の行いによらない』で私たちを義としてくださるイエスがおられることをどのように知らせますか。

NOTE

すべての教理の源はキリストにあります。すべては彼のうちに存在するからです(コロ1:16、17)。キリストにある最大の真理は「キリストは我らの義」です。彼の完全な義が、律法の行いによらず、信仰によって私に帰せられます。神の恵みにより主は救いの計画を主導されました。その恵みに応えるべく信仰という賜物が与えられ、それによって自分のうちに救いの計画が実現しました。私たちは義とされて神のみ前にあたかも罪を犯したことがないかのように受け入れてくださいます。無償で与えられた救いの不可欠な結果としての一つは救いの手段としてでなく、その実としてよい行いをあらわすのです。

 もっと深く学びたい方へ

『キリストへの道』62～72ページ(信仰)、『患難から栄光へ』下巻260～270ページ(恵みによって変えられた人)、『セレクトッド・メッセージズ』(英文)第1巻377～382ページを読んでください。

「聖書の偉大な真理のすべてはキリストに中心を置き、正しく理解するならすべてはキリストに至ります。キリストを偉大なあがないの計画のアルファ、オメガ、また初め、終わりとして提示しましょう」(エレン・G・ホワイト『レビュー』1890年11月25日)。

信仰と行いの関係はキリスト教における大きな論争点の一つです。行いは信仰の必然的な結果ですが、行いには信仰とは異なる目的があります。行いは救われていることの結果であり、手段ではありません。信仰は実体であり、行いはそのしるしです。E.J.ワゴナーは『よきおとずれ』の中で次のように述べています。「人々はしるしを実体と、目的を手段と取り違えています。彼らは義が良い行いのうちに表されると考えています。そこで、良い行いが義をもたらすと考えるのです」(53ページ)。

ミニガイド

【恵み】 ギリシャ語でカリス、ラテン語でグラティア、英語でグレースと言います。旧約時代は義、憐れみと同じく神の属性、性質として挙げられ、人に対する“神の好意”を意味する語句でした。新約聖書では、キリストの生涯、その死と復活に示された神の愛をあらわす言葉として用いられています。私たちは信仰によって神の恩恵を自分のものとするわけですが、「私は……信じます」「信仰を持つ」と言うものの、信仰そのものも神の賜物として受け入れ、決して自分の意志や力で信じることができると考えません。

- ・恵みは罪の赦しの保証です。
- ・恵みは罪と死の法則から私たちを解放し、聖霊の法則に生きるように導きます。
- ・恵みはさらに品性改変の力となり、聖潔への道へと助けます。
- ・恵みは霊のことをわきまえる洞察力でもあり、
- ・宣教の中心主題も目的も、働きかけもすべて神の恵みです。

信じる、信じないにかかわらず、神はすべての人に「太陽を昇らせ、雨を降らせて」くださっています（マタ5:45）。生きる命、自然の恩恵、食べ物、着物、愛、家族、秩序、平和など、これらを“一般的または普遍の恵み”といいます。どの人も私たちはこの神の恵みの中で生きています。ただしキリストを信じることによる救いについては“超自然、特殊の恵み”と神学書は定義しています。

【義】 義は神の属性の一つで、神のみが絶対義を持っておられます。正しい神は義を愛し、不義、悪を裁くお方です。神の義は人間に属性としての義を要求します。しかし人間は罪を負っているため義を持たず、そのため神のみ前に立つことはできません。しかし私たちが神の恵みの賜物を信仰によって受け入れるとき、義の状態にあるとみなされます。キリストが律法を完全に守ってくださったその義を私たちに与えてくださると聖書は教えています。キリストの義を得たとき、私たちは神との平和を得ます（ロマ5:1）。また私たちは結果として義の実を結ぶように導かれます。アブラハムは神を信じて義と認められました（ロマ4:3）。そのアブラハムは素直に神の命令に従い、行くところを知らずに故郷を離れ、約束の子イサクを捧げたのでした。



第2課

7月14日

安息日

●暗唱聖句●

「神は第7日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第7日に休まれた。神はその第7日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終って休まれたからである」
(創世記2:2,3、口語訳)

「第7の日に、神は御自分の仕事を完成され、第7の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさった。この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第7の日を神は祝福し、聖別された」
(創世記2:2,3、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

7月7日

なぜ安息日は大切なのでしょうか。なぜ旧約聖書は安息日がユダヤ人のためだけと教えていないのでしょうか。安息日はどのような点で^{あがな}贖いを指し示していますか。イエスは安息日について何と教えましたか。今週のガイドはこうした点を学びます。

永遠の記念日 創造当初、神が最初に聖別されたのは時間、第7日の日であって(創世2:3)、創造された物(鳥、海、人など)ではありませんでした。安息日は例外なく毎週、すべての人にめぐってきます。神殿や聖なる場所は破壊されることがありますが、時間の中におかれている安息日は破壊されることがありません。人は聖なる物や聖なる場所を避けることができますが、安息日は避けることができません。安息日は必ずめぐってきます。

すべての人に公平に臨む安息日は人類のための神の創造とあがないの御業を示す不滅の記念日です。安息日は私たちの起源について最高の意義を教えます。私たちが何であるか、なぜにここにいるのか、そして最終的にどこに向かっているのかを教えます。

日曜日

基礎としての天地創造

7月8日

NOTE

聖書の第1節を読み、そこに何が書かれているかを瞑想してみましょう。第一前提は救いでも、あがないでも、十字架、再臨、あるいは新天地の生活でもありません。そこに書かれていることはただ一つ、神が私たちの創造者であるということです。

聖書が天地創造をもって始まっている理由はたぶん、救い、あがない、再臨などの真理がいかに重要であっても、「初めに、神は天地を創造された」という事実を抜きにしては意味を持たないからです。天地創造がほかの教えよりも重要であるということではありません。むしろ、他の教えがすべて天地創造という厳粛な事実根ざしているのです。

問1 創世記1:1の事実を十字架の救い、贖い、信仰などの重要な教理と切り離したら、これらの教えにどんな意味が残るでしょうか。

天地創造はクリスチャンにとってきわめて基本的、根本的な信仰箇条です。天地創造と同じく、神の不滅の記念日である安息日も同じほどの意味を持つ重要な教理です。私たちが今、存在し、生活し、こうして生きていること自体が偶然ではなく、神によって創造されたという認識に導くからです。神は私たちに毎週このことを思い起こすように望んでおられます（出エ20:8～11）。

神の御心にしがたって安息日を守るかぎり、私たちは決して自分の起源を忘れることがありません。私たちが神によって創造されたという事実の重要性のゆえに、私たちは自分の人生の7分の1をそのことを覚えるために捧げるように求められています。安息日は単なる“日”に関するものではありません。それは私たちの存在についての最も基本的な原点、すなわち私たちが神により目的をもって創造されたことを毎週思い起こすためのものなのです。安息日の戒めを尊重することによって私たちの信仰理解の幅は驚くほどの広がりを持つようになるでしょう。

◆ 安息日の戒めは神による万物創造のほかに毎週何を思い起こさせてくれるでしょうか。

NOTE

「神がシナイで初めて安息日を啓示されたのだから、安息日は全人類でなくユダヤ人だけのものである」と信じている人が少なくありません。しかしこの考えは誤りで、聖書を見ると（出エ16：4、5、13～30）、ヘブライ人がシナイ以前から安息日を守るように教えられていたことが示されています。

さらに安息日が天地創造の記念日であり、すべての人が国籍に関係なく創造の結果として存在することを考えるなら、主がこの記念日を一つの民族だけに限定される理由はありません。もし起源をエデンに求めることのできない民族がいたとするなら、そのような議論も成り立つでしょう。安息日が神によって造られたすべての人のためにあると考えるのが理にかなっています。ユダヤ人の宗教哲学者マルティン・ブーバーは、安息日は「世界の起源そのものに根ざしているのであるから、安息日はすべての人の共通の財産であり、すべての人が制約なしにそれを享受すべきである」と述べています。

問1 次の聖句を読んでください（創世2：2～4、ヤコ2：10、Ⅰヨハ5：2）。「安息日はユダヤ民族のためだけの戒め」と考えられるでしょうか。

安息日は全人類のために定められたのですが、背信によって長く忘れ去られました。主がイスラエルをエジプトから導き出されたとき、それは神とヘブライ民族との間の特別なしるしとされました（出エ31：12～18）。ヘブライ民族は神についての真理を世界に伝えることになっていました。この中に彼らの神との契約関係のしるしである安息日が含まれています。イスラエルの特別な使命について述べたこの部分においても、安息日に関する神の言葉が見られます。「これは、永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである。主は6日の間に天地を創造し、7日目に御業をやめて憩われたからである」（出エ31：17）。安息日は創造週と結び付いていました。

◆ 安息日はそれを守るすべての人にとってどんな祝福となりますか。

火曜日

安息日と救い

7月10日

問1 イザ 56：1～7を読んで、安息日の祝福がユダヤ人だけに限られていないことを学びましょう。

NOTE

イザヤは主の救いがユダヤ人だけに限られたものではなく、「主のもとに集って来る」すべての人に及ぶと明言しています。義、救い、永遠の命は異邦人にも与えられると彼は言っています。「国々はあなたを照らす光に向かい／王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む」(イザ60:3)。救いがすべての人のためにあるとすれば、安息日もまたすべての人のためにあります。

安息日は天地創造のしるしであると同時に、新天地、新生活にいたるあがないのしるしでもあります。初めに世界を創造された神は、いつの日か罪の世を再創造されます。これは神の約束です(イザ 65：17、66：22、II ペト 3：13、黙示 21：1)。

問2 「福音はユダヤ人にだけでなく全世界に」という思想を旧約聖書に見つけることができるでしょうか。

イザヤ書56:1～7に書かれていることはアドベンチストのメッセージの中心であり、教会がそれを宣べ伝え始める2500年前に与えられたものです。イザヤはここで、(黙示録14:6の第一天使のメッセージにあるように)福音を全世界に宣べ伝える必要があることを教えているだけではありません。彼はまた、(黙示録14:12の第三天使のメッセージの中で神の戒めの一つとして扱われている)安息日が救いのメッセージと結びついていることをも明らかにしています。旧約聖書のここでも安息日がユダヤ人だけのものであるという考えが否定されています。あがないはすべての人のため、安息日もすべての人のためにあります。

◆ 安息日はどのような点で神の救いの御業の象徴でしょうか。救いの計画という壮大な神の御業はどのようにして完成するのでしょうか。それは私たちにとってどんな意味を持ちますか。

NOTE

イエスが安息日を廃止、変更されたという議論には大きな矛盾があります。安息日に対するキリストの態度について調べれば、なぜそのような結論になるのか不思議です。イエスが安息日に関して言われたこと、なされたことは何一つ、安息日が廃止あるいは変更されたことを暗示してはいません。イエスとファリサイ派の人々との論争は決して、どの日が安息日か、安息日を今も守るべきかということではありませんでした。むしろ問題は、安息日をどのように守るべきかということでした。もしイエスが安息日を廃止、あるいは他の日に変更されたのなら、安息日の遵守をめぐるこれほど宗教指導者たちと闘う必要があったのでしょうか。

神学者D.A.カーソンは安息日に関してアドベンチストと異なった立場を取っていますが、それでも著書の中で次のように述べています。「週の第1日に安息日の性格を持たせ、それに置き換えるという暗示は、イエスの働きのどこにもない」（『安息日から主の日へ——聖書的、歴史的、神学的考察』85ページ）。

問1 イエスが安息日のことで当時の宗教指導者たちと論じあった記事を読みましょう（マタ12:1～14）。論争点は何でしょうか。イエスが安息日を変えたというヒントがありますか。

ファリサイ派の人々はなぜ、安息日に人をいやされたイエスを非難したのでしょうか。その理由はたぶん、ユダヤ人が安息日をメシアの時代、つまり新天地のしるしと見ていたからでしょう。彼らによれば、安息日はオラム・ハーバ（来るべき世界）の前触れでした。彼らの神学によれば、この来るべき世界でなされないことを、その前触れである安息日においてすることは許されないことでした。つまり、新しい世界では病気がないので、いやしもないことになります。したがって、安息日におけるイエスのいやしの行為は罪と見なされたのでしょうか。

◆ イエスが安息日をどのように守られたかを調べてください。

木曜日

安息日と聖所

7月12日

問1 安息日と聖所にはどんな関係があったでしょうか。出エ
31：12～18、40：20～23

NOTE

神は十戒を石の板にお書きになり、この道德律が永続的で重要であることを示しました。さらに、神は十戒を契約の箱に納めるように指示されました。この契約の箱は神ご自身の住まいを表す聖所の中の至聖所に置かれました。安息日はほかの戒めと共に、神の玉座の象徴である贖罪所の下の方の聖なる場所に安置されました。

問2 安息日と天の聖所にはどんな関係があるでしょうか。
黙示 11：19

黙示録 11：19は「契約の箱」について述べていますが、これは地上の聖所の中の至聖所にあった箱を指しています。天の聖所は地上の聖所のひな形であるゆえに（出 25：9、40、ヘブ 8：1～5）、黙示録 11：19は（契約の箱に言及することによって）私たちの心を神の律法と聖所、特に至聖所に向けさせています。安息日を含むすべての律法が地上の聖所の至聖所の中にあったゆえに、天の聖所の幻もまた直接的には神の戒めを、間接的には安息日を指し示しています。

「ユダヤ時代の神を信じる人たちはだれでも、契約の箱と聞けばすぐに十戒を意識しました。天にある契約の箱に関するヨハネの幻は、地上の終わりの時には、大いなる神の道德律が霊と真理をもって神に仕えるすべての人の考えと生活の中心となることを雄弁に教えています」（『SDA 聖書注解』7巻 806 ページ）。

◆ ジャン・ポール・サルトルは、もし神が存在しなければ「すべてのことが許される」と述べています。さらに、もし人間が神によらず偶然に出現したとすれば、この世において「価値を見いだす可能性」はないとも述べています。そうであれば、安息日の戒めは他のすべての戒めにも従うべきことを教えていることになります。十戒は道德的行為の根拠である神を私たちに示しているからです。

NOTE

今週のガイドは幾つかの重要な点を教えています。

- (1) 安息日は万物の初めという創造を指し示している。創造の教理がなければキリスト者としての信仰、存在の根拠を失うことになる。
- (2) 安息日は普遍的な戒めで、ユダヤ人のためだけのものではない。
- (3) 安息日は創造と贖いの記念である。贖いも安息日も全世界のため、安息日も全世界のためである。
- (4) イエスはその生涯と教えを通して安息日の重要性を教えられた。
- (5) 天の聖所の実在、イエスの大祭司的奉仕は安息日の真理を鮮明に理解させる。

つまり、神の創造の事実と同じく安息日遵守はしっかりと聖書の根拠の上に立っていることを示しています。

 もっと深く学びたい方へ

『各時代の希望』上巻360～373ページ（安息日）を読んでください。

「安息日は天地創造において聖なるものとされました。人のために設けられた安息日は、『夜明けの星』が『こぞって喜び歌い／神の子ら』が『皆、喜びの声をあげた』ときにその起源をもつ（ヨブ38：7）。……安息日はイスラエルのためだけでなく、全世界のためにありました。それはエデンにおいて人に知らされ、十戒のほかの条項と同様に、永遠にわたる義務です。キリストは第4条を含む十戒について、『天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない』と言われました（マタ5：18）。天地が存続するかぎり、安息日も創造主の力のしるしとして続きます。そして、エデンが再び地上において花開くとき、神の聖なる安息日は太陽の下すべての人によって崇められます。栄化された新天地の住民は、『安息日ごとに……わたしの前に来てひれ伏すと主は言われる』（イザ66：23）」（『私を生かす信仰』37ページ）。

ミニガイド

『アドベンチストの信仰』第19章は「安息日」に関してSDA教会が信じ、実践することを内外に公表した大事な声明です。この章を読んで安息日を私どもが信じる根拠を確認しましょう。

「恵み深い創造主は、6日にわたる創造のわざを終えて7日目に休まれ、創造の記念としてすべての人のために安息日を制定された。神の不変の律法の第4条は、この7日目安息日を休息と礼拝と奉仕の日として守るよう求めている。それは安息日の主であるイエスが教え、実践されたことと調和する。安息日は、神と人との喜びにあふれた交わりの日である。安息日は、キリストにおけるあがないの象徴であるとともに、われわれにおける聖化と忠誠のしるしであり、神の国における永遠の世界の先取りでもある。安息日は、神と民との間における永遠の契約の変わらぬしるしである。この聖なる時間を夕べから夕べまで、すなわち日没から日没まで喜びにあふれて守ることは、神の創造とあがないのみわざを祝うことである」(序論)。

出エジプト記20：8～11（SDA聖書注解参照）を読みましょう。

〈安息日を〉ヘブル語で“シャバト”「止める」「休む」の意味。

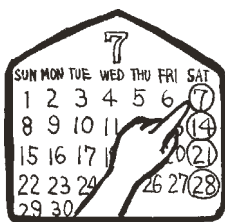
〈覚えて（口語訳）〉前にあったことを思い出す意味があり、この戒めがシナイ山で初めて与えられたものでないことを示す。「覚えて」には繰り返しての意味があり、重要性を強調している。

〈聖別せよ〉「切り離す」「分離する」ことを意味し、他と違って特別に扱うことへの指示。

〈6日の間働いて〉働くことの尊重。勤労、忠実、義務の履行を示し、怠惰、いかにげんに6日間を過ごすことを禁じている。

〈いかなる仕事もしてはならない〉 憐れみの行為や生命、健康の維持についての仕事を禁じるものではない。「安息日に善いことをする」(マル2：23～28)のは律法にかなうことであった。

〈息子、娘、奴隷、家畜、寄留する人も〉 家畜への慈しみを聖書は述べている(出エ23：5、12、申命25：4)。ニネベが滅びを免れた一つの理由に「無数の家畜」(ヨナ4：11)がある。自分たちだけが休むのではなく、奴隷にも休息を与えよとの指示であった。出エジプトの日、多くの外国人が自由意志でイスラエルに従った(出エ12：38)。民の間の外国人も祝福を受けた(民数10：29、ゼカ8：22、23)。人類すべてがこの日に休み、記念し、覚えることを意味した。



第3課

7月21日

安息日は神との関係のしるし

● 暗唱聖句 ●

「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを、彼らに知らせるためである」
(エゼキエル書 20:12、口語訳)

「また、わたしは、彼らにわたしの安息日を与えた。これは、わたしと彼らとの間のしるしとなり、わたしが彼らを聖別する主であることを、彼らが知るためであった」
(エゼキエル書 20:12、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

7月14日

神はなぜ他の日でなく第7日目を安息日とされたのでしょうか。どの日でも守ればいいのでしょうか。安息日にはどんな霊的教訓がありますか。私たちのために神がなさったこと、今もなさっておられることを安息日はどのように教えているのでしょうか。

聖なる時間 安息日は1週間のうちの1日にすぎませんが、神は安息日を通して多くの真理を教えておられます。安息日は私たちがどのような存在か、神がどのようなお方であるか、最も重要なことは神が御子イエス・キリストにおいて私たちのために何をしてくださったかを教えているのです。

安息日を単調で律法主義的な骨折り仕事の日に変えてしまうことほどつまらないことはありません。悪魔は巧妙にも、福音の最も明瞭なしるしのひとつである安息日を、自分自身を救おうとする人間の無益な試みの日に変えてしまっています。安息日を人間の行いを賛美する独善的な日として守るのは意味がありません。第7日安息日を非難する人がいますが、この聖なる日は、実は人間の業ではなく神の御業に関する日です。働いてはならないと言われている安息日にはまことに深い意味があります。

日曜日

安息日は随意？

7月15日

問1 創世記2:2、3、出エジプト20:8～10、ヘブライ4:4を読んでください。共通することは何でしたか。

NOTE

「第4条を守るのは大事なことです。私にとっての安息日は火曜日です。火曜日が私にとってはいちばんよい日です」と言うのを聞いたことがあるでしょうか？ 安息日の重要性を認めていることでは素晴らしいのですが、この考え方には根本的な誤りがあります。神は週の第3日や第1日、あるいはその他の日を聖別するように言われたわけではありません。神は第7日と指定されました。神は特に第7日を安息日として選ばれたのです。

問2 「週のどれか1日を安息日として守ればよい」と考える人はどんな理由を考えていると思いますか。

第7日目が安息日として選ばれることには論理的な根拠がないように思われます。1日、1か月、1年の周期とは異なり、第7日[1週]は天体の運行とは全く関係がありません。第1日や第3日、あるいはその他の日以上に、第7日に実際的な意味を与えるものは自然界には何もありません。しかし神は第7日目を特別に選ばれました。

「クリスチャンが安息日を心にとめ、それを聖別するのは、まさに神の命令に従うからであり、神が自分の創造主であるからです。したがって、安息日の戒めは他のどの戒めにもまして霊性についての真の尺度となり、しかも古代イスラエル時代における同様に、他のいかなるものにもまして神に対する忠誠のテストとなります」(ラウル・デドレン「ある安息日神学に関する考察」、ケネス・ストランド編『聖書と歴史における安息日』302ページに引用)。

◆ 盗み、殺人、姦淫^{かんいん}を禁じる戒めはきわめて实际的であり、神を信じない人でさえ守っています。安息日を守るただ一つの理由は、神がそのように言われたということだけです。

NOTE

問1 出エジプト記20：8～11と申命記5：12～15にある安息日の戒めを比べ、どこが違っているか調べてください。

興味深いことに、安息日はこれらの聖句の中で異なった出来事と関連づけられています。出エジプト記の記事では、安息日は世界を創造された神の行為と関連づけられています。一方、申命記においては、安息日は創造ではなく、イスラエルがエジプトの奴隷から解放されたことと関連づけられています。両者を詳しく比較してみると、彼らの奴隷も安息日には休むべきことがわかります。申命記の記事を読むと、ヘブライ人がその奴隷を休ませるのは、彼らがかつてエジプトで奴隷であったことを思い起こすためであったことがわかります。

問2 安息日には深い真理があります。出エジプトはキリストによる解放の象徴として例示されていますが（Ⅰコリ10：1～6）、次の聖句は罪からの解放を述べています。

コロ1：13 _____

Ⅰテサ1：10 _____

申命記においては、安息日の戒めが奴隷からの解放と結びつけられています。このことは安息日遵守が天地創造のほかにもう一つの次元を持つことを示しています。天地創造はあがないと関係があります。それゆえに、安息日は私たちを創造された神がまた私たちを罪からあがなってくださったことを思い起こさせるものであることを申命記は明らかにしているのです。

◆ 安息日は罪からの解放記念日です。キリストが私たちを個人的に何から解放してくださったかを理解する上で安息日はどのような意味を持ち、どのように覚えることが重要なのでしょうか。

火曜日

安息日は救いのしるし

7月17日

NOTE

「それで、安息日の休みが神の民に残されているのです。なぜなら、神の安息にあずかった者は、神が御業を終えて休まれたように、自分の業を終えて休んだからです。だから、わたしたちはこの安息にあずかるように努力しようではありませんか。さもないと、同じ不従順の例に倣^{なら}って墮落する者が出るかもしれません」（ヘブ4：9～11）。

天地創造に創造主が必要であり、あがないには同じ創造主が必要でした（コロ1：14～16、ヘブ1：2、3）。主は安息日を定め、それを聖とすることによって天地創造の御業を祝われました。同じように、主は安息日をあがないのしるしとすることによって私たちのためのあがないの御業を祝われます。

ここに安息日と信仰による義との結びつきがあります。天地創造は私たちのため、救いも私たちのためになされました。どちらも神が私たちのためになさった業であり、決して私たちが自分自身のためにする業ではありません。安息日は私たちの義の源が神にあり、それ以外の何ものにもないこと、まして私たち自身の業ではないことを示しています。安息日は私たちが自分を創造したのでないと同様に、自分自身をあがなうことができないことを教えています。

問1 上記ヘブライ人への手紙にある「安息日の休み」は私どもの救いとどんな関係があると思いますか。

「安息日をキリストの創造とあがないの力のしるしとして受け入れるすべての人にとって、この日は楽しみとなる。彼らはその中にキリストをみだし、キリストのうちにあってよろこぶ。安息日は創造のみわざをあがないにおけるキリストの大きな力の証拠として彼らにさし示す。それはエデンの失われた平和を心によびもどすとともに、救い主を通して回復された平和を告げている」（『各時代の希望』上巻 373 ページ）。

◆ 安息日の平和がイエス・キリストの救いによる平和を反映するのはどのようにしてですか（ロマ5：1）。

NOTE

問1 出エジプト 20：8、レビ 20：7、Ⅰペトロ 1：15、16 を読んでみましょう。共通点は何でしょうか。

神は私たちに安息日を聖別するように命じました(出エ20:8)。そのためには私たち自身が聖でなければなりません。本来、聖でない者が安息日を聖とすることができるのでしょうか。できません。

このことから神は私たちが聖となるように召しておられることがわかります。ペトロは教会を聖なる国民と呼びました。「しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です」(Ⅰペト2:9)。

この「聖」は神が私たちにお与えになるものです。私たちが真に神の安息日を聖とする者となるためには、神と協力することを学ばなければなりません。安息日はこのような聖のしるしなのです。

問2 出エジプト記 31：13 を読み、安息日と聖化との関係を調べてください。

聖句にある「聖別」という語は、同じヘブライ語の「聖」から来ています。これをやさしく訳せば、「わたしがあなたがたを聖とする主であることを知るため」となります。ですから安息日は単に神が私たちのためにしてくださる義認のしるしであるだけではありません。それはまた、神が私たちのうちにしようとされる聖化の象徴でもあります。あがないの全計画は回復を含みます。創造と再創造の象徴である安息日は、私たちのうちに働き、私たちを神の望まれる者に回復する神の創造力を象徴しています。Ⅱコリント 5：17、ガラテヤ 6：15 を読んでください。この働きは再臨においてのみ完成しますが、私たちの聖化の過程は今も続いています。

◆ 私たちは自分で自分を義とすることも、聖とすることもできませんが、聖としてくださる主に協力することはできます。私たちは安息日の守り方を反省し、安息日を「聖」としているかどうかを自問自答してみましょう。

木曜日

安息日は忠誠のしるし

7月19日

セブンスデー・アドベンチストは、安息日が終末時代の諸事件の中で特別な役割を果たすと理解しています。安息日はある意味で、神に対する私たちの忠誠を試す「テスト」となります。しかし、安息日がテストとなったのはこれが初めてではありません。

NOTE

問1 出エジプト 16:4、5 を読んでください。マナと安息日についての物語を通して神は民の忠誠心を試されました。

第一天使のメッセージを注意深く読んでください（黙示 14:6、7）。「天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい」とのメッセージは、安息日の戒めにある表現と同じでないとしても（黙示録には旧約聖書からの引用が一度もない）、明らかに関係があることを示しています。終わりの時代に礼拝をめぐって二つのグループがあります。「天と地……を創造した方」（黙示 14:7）を礼拝する人々と、「獣の像」（黙示 13:15）を礼拝する人々です。私たちが創造主だけを礼拝するゆえに、また安息日が創造主を覚えさせるものであるゆえに、安息日が歴史の最終において重要な役割を果たすとしても不思議ではありません。

問2 黙示録 14:1～12 にある預言的なメッセージを読みましょう。

「安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。最後の試練が人々を襲うとき、神に仕える者と神に仕えない者の区別が明らかになる。第4条の戒めに反して、国家の法律に従って偽りの安息日を守ることは、神に敵対する権力に忠誠を尽くすという表明であり、一方、神の戒めに従って真の安息日を守ることは、創造主に対する忠誠の証拠である」（『各時代の大争闘』下巻 375 ページ）。

◆ 安息日が忠誠のテストとなるのに終わりの時まで待つ必要はありません。職場や学校で安息日問題に直面している人がいませんか。あなたはどのようにその人に神への忠誠を勧めますか。

NOTE

私たちは週の他の日でなく第7日目安息日を守ります。なぜなら神がそう言われたからです。安息日は解放と救い、義認、聖化、忠誠の象徴です。安息日には大事な信仰的要素が多く要約されています。

 もっと深く学びたい方へ

安息日の賛歌である詩編92編を読んでください。それが安息日にふさわしい賛歌であるのはなぜですか。この詩編のどこに天地創造と神のあがないの結びつきを見ることができますか。

『人類のあけぼの』上巻17～27ページ(天地創造のいわれ)、『各時代の大争闘』下巻174～185ページ(安息日の意義とその回復)を読んでください。

「神と交わることによって、私たちは実際に神の聖なる性質にあずかる者となる。このように、安息日の時間は人と神との親密な交わりで満ちているので、安息日は清められた生活のしるし、また縮図となる。

神は私たちに輝かしい機会と特権を与えておられる。私たちは安息日という特別な方法で、毎日の労働から逃れ、イスラエルの聖なる神と深く、個人的に交わり、この親密な関係によって神の姿にますます変えられる」(リチャード・ディヴィッドソン『安息日賛歌』89ページ)。

ディスカッション

- (1) 安息日を守らなければ、もう少し収入がよい職があり、生活もありえます。安息日遵守は信仰を必要とします。
- (2) 安息日遵守を律法主義的でないように覚える必要があります。どのようなことを注意すべきでしょうか。

ミニガイド

日曜礼拝はどのように始まったか

アンドルーズ神学院のサムエル・バッキオキ教授はユニークなSDA 神学者です。彼はローマ法王庁直属のグレゴリオ大学に学びましたが、カトリック以外の信仰者として初めて入学を許可され、最優秀の成績で卒業し、博士号を取得しました。このためパウロ6世法王から特別メダルと賞状を受けています。彼の論文はイタリア語の「安息日から日曜日へ」で（1977年）、内容は日曜礼拝の起源でした。

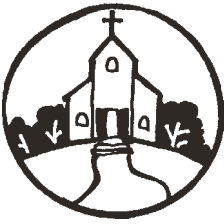
日曜礼拝は紀元150年ごろすでにあったことを教父であり殉教者となったユスチノスが記録しています。キリスト教はエルサレムから始まり、1世紀の終わりには大都市ローマに達しました。当時のローマの宗教はミトラ教で、太陽神を毎日曜日に礼拝し、その誕生日は12月25日、ローマ皇帝はミトラ教の最高神官でした。

第1次、第2次ユダヤ戦争は（70年、135年）頑固で反抗的なユダヤ人という強い印象を与え、同民族への嫌悪感をつのらせましたが、時の皇帝ハドリアヌスはユダヤの慣習や割礼、安息日遵守、ひざまずく祈りの姿勢を禁止して反ユダヤ主義政策をとりました。こうして徐々に第7日目安息日に代わって、第1日目日曜礼拝が教会に浸透するようになったのです。

皇帝コンスタンチヌスは政治的な理由からキリスト教徒に改宗して教会優遇の政策をとりました。321年、彼は民法による日曜休業令を發布、ローマ市民は「尊ぶべき不滅太陽の日」（日曜日）にすべての仕事を休むように命じました。内容は明らかに異教的で「種まきや収穫日が神々の吉日と日曜日にあたる場合に限り、農夫は働いてよい」としています。

364年、公認されたカトリック教会は「尊い主の日である日曜日の礼拝を行うこと。土曜日は休んで怠けず、働け。クリスチャンがユダヤ的な礼拝を行えばキリストから棄てられる」（ラオデキア会議）と決議しています。明らかに土曜日に礼拝をしていた人々があったことを示すものでした。

日曜礼拝は聖書的な根拠を持ちません。SDA教会は日曜礼拝が異教との妥協の産物として理解し、土曜礼拝を預言的視野から信仰告白の一部として尊重する立場をとっています。私たちは確かに正しい安息日を守っています。ただしキリスト者として心から、霊的に主を礼拝する信仰者でありたいと思います。



第4課

7月28日

安息日をきよく守る

●暗唱聖句●

『もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う』。これは主の口から語られたものである」

(イザヤ書 58 : 13、14、口語訳)

「安息日に歩き回ることをやめ／わたしの聖なる日にしたい事をするのをやめ／安息日を喜びの日と呼び／主の聖日を尊ぶべき日と呼び／これを尊び、旅をするのをやめ／したいことをし続けず、取り引きを慎むなら／そのとき、あなたは主を喜びとする。／わたしはあなたに地の聖なる高台を支配させ／父祖ヤコブの嗣業を享受させる。主の口がこう宣言される」

(イザヤ書 58 : 13、14、新共同訳)

安息日午後

今週のメッセージ

7月21日

安息日の準備は掃除をする以上の深い意味があります。安息日は私と神、他者との関係を強めます。聖書は安息日を楽しみ、喜ぶことを勧めています。次の安息日とその日でありますように。

安息日の祝福 「イスラエル人が安息日を守った以上に、安息日がイスラエル人を守った」という語がユダヤにあります。安息日の祝福とは日そのもの以上に、神がその日に与えられる祝福のことです。安息日を守ることによって、私たちはその祝福にあずかります。2週にわたって安息日の神学と安息日を守る理由について学びましたが、今週は安息日の守り方とその祝福を学びましょう。

日曜日

安息日への物理的備え

7月22日

マルコ15:42、ルカ23:54、ヨハネ19:31では安息日への“準備の日”について述べていますが、聖書は安息日への準備に関してあまり詳しく書いていません。それでも安息日が休みの日であり、その日に“働いてはならない”とされているのですから、準備の日は安息日を命じられたとおり最も有効に守るための助けとなるように用いるべきです。

NOTE

問1 家族みんなが安息日をきよくまた楽しく守るためには、準備の日にどんなことをしたらよいと思いますか。

「神はご自分のきよい日を、イスラエルの時代と同じように、いまもなお、きよく守るように要求しておられる。クリスチャンは、みな、ヘブル人に与えられた命令を、主から自分たちに与えられた命令とみなさねばならない。安息日の前の日は、きよい時間のためにすべてのことを準備するための備え日としなければならない」（『人類のあけぼの』上巻343ページ）。

安息日の備えについて考えましょう。

1. 家族の一人ひとりが安息日に備えるための責任を分担しましょう。幼い子どもであっても、それぞれの年齢と能力に応じた仕事をすることができます。家族全員で備えを分担することによって、特定の人に負担がかかるのを防ぐことができます。
2. 仕事が金曜日に集中しないように、他の曜日でもできることはその日にしましょう。
3. 「6日の間働いて……」と戒めの中にありますが、この短い文章には大事な思想がこめられています。

◆ ユダヤ人は何千年もの間、準備の日を含めて、安息日を家族の行事とみなしてきました。家族が協力して安息日のために準備することにはどんな祝福がありますか。安息日はもちろん、準備の日も喜びとするためにはどうしたらよいですか。

NOTE

安息日のための物理的備え自体が目的ではありません。準備は主とのより深い霊的経験につながるべきものです。もし安息日に日常の世俗的な問題から解放されているなら、私たちはそれだけ主とのよりよい交わりに入ることができます。安息日の目的はまさにここにあります。もし第4条に従うことによって主との関係が強化されていないとすれば、私たちは安息日を聖としていないことになります。単に仕事を休んでいるだけのことです。

問1 第7日目安息日を守るためには週の6日間も大事な日です。安息日を霊的に守るため、日々どんな準備をしたいと思いますか。

主はイザヤ書58:1～13において、親切、憐れみ、奉仕の行為を安息日と結びつけています。最初の数節は苦しみの中にある人々を助けることを述べていますが、その後すぐに安息日について言及しています。私たちの毎日の働きや人々への対応が、安息日における私たちの霊的休みの質と直接的な関係があることを示しています。もし1週の間私たちの働きと人間関係が霊的に充実したものでなければ、安息日の霊的恵みを最大限に体験することはできません。

安息日に人々はイエスを責めながら安息日の細則を守っていました。そんな心の状態で安息日を守ったとしても、どれだけの意味があるのでしょうか。私たちが神と正しい関係にあるとき初めて、安息日は意味を持つものとなります。

安息日の備えとは“日”を迎える準備というより、“安息日の主”を喜んで迎えるためのものです。この準備は金曜日の午後だけでなく1週間を通してなされるべきものです。安息日に関する真理には深い霊的教訓が多く含まれています。

◆ 私たちは多忙な日々を送っていますが、安息日を迎える金曜日、そしてその晩をどのように過ごすことが理想と思いますか。

火曜日

安息日は‘関係改善’の日

7月24日

十戒の第3条までは神との正しい関係を勧め、後半の6条は人との正しい関係を勧めています。前半の3条と後半の6条の間にある第4条の安息日の戒めは私たちを神との関係と隣人との関係に結びつけるユニークな戒めです。

NOTE

問1 マルコ12：30、31にある最大の戒めについてのイエスの言葉との結びつきを調べてください。

安息日の戒めは神と人との両方に焦点を合わせているので、2枚の律法の板を結ぶ「^{ちようつがい}蝶番」と呼ばれています。それは2枚の律法の板を一つに結ぶと同時に、私たちの神との関係と隣人との関係を一つに結んでいます。

安息日の戒めは夫婦、親子、教会員同士を密接につなげる大事な日でもあります。安息日は私たちの神との関係を豊かにする一方で、友人や家族との、より有意義な交わりの機会を与えてくれます。安息日は世俗的な事柄のために時間を奪われていないので、神と共に時間を過ごし、信仰の友や家族同士の関係を深めることに時間を用いることができます。イエスが、「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」(マコ2:27)と言われた言葉にはまことに深い意味が込められています。

◆ よい関係は自然に生まれるものではありません。よい関係はいっしょに時間を過ごし、交わることによって得られます。神が私たちに安息日を与えられたのはそのためです。この特別な機会を有効に用いなければ、安息日の24時間はほかの日と同じように過ぎてゆくでしょう。どうしたら安息日という尊い賜物を、神と人との関係を強めるために用いることができるのでしょうか。喧騒な都会の中の教会で過ごすという不利な条件にある私たちは「安息日を聖とせよ」との主の言葉をどのように気をつけたらよいのでしょうか。

NOTE

「安息日に歩き回ることをやめ／わたしの聖なる日にしたい事をするのをやめ／安息日を喜びの日と呼び」(イザ 58:13)。

セブンスデー・アドベンチストである私たちは安息日の守り方について悩むことがあります。盗むな、殺すななどはわかりやすいのですが、安息日の戒めには細かい指示がないように思えます。安息日には“すべての業をやめて休む”ように教えられています。でも朝食の用意はしなければなりません。

聖書が安息日について教えていることの一つは、安息日をどのように過ごすとも、それは有意義な経験でなければならないということです。イザヤ書58:13には、安息日を「喜びの日」と呼ぶように教えられています。「喜びの日」という言葉は、豊かな、深いという意味を持ったヘブライ語の“オーネグ”から来ています。それは「柔和、繊細、優美」を意味します。この語は14節の「主を喜びとする」という表現にも用いられています。同じ語が詩編37:11にも出てきます。「しかし柔和な者は国を継ぎ、豊かな繁栄をたのしむことができる」(口語訳)。

問1 イザヤ 58:13 には、安息日を「喜びの日」とするとともに、「したい事をするのをやめ」る(英文はyour pleasure, あなたの楽しみ)とありますが、この関係をどう理解すべきでしょうか。

安息日は休みの日であり、「喜びの日」でもあります(ユダヤ人はこれを“オーネグ・シャバット”と呼び、会堂における楽しい交わりの日としています)。神は私たちに安息日を楽しむように望んでおられます。安息日を週の最高の日としましょう。安息日には食事、交わりも、すべてが最高であるべきです。もし安息日が楽しみの日でないなら、もし安息日を「喜びの日」と呼ぶことができないなら、守り方に何か問題があると考えてください。

◆ 安息日を楽しみに待つことができますか。安息日は「喜びの日」になっていますか。

木曜日

安息日は喜びの日(2)

7月26日

「そのとき、あなたは主を喜びとする。／わたしはあなたに地の聖なる高台を支配させ／父祖ヤコブの嗣業を享受させる。／主の口がこう宣言される」(イザ 58:14)。

NOTE

神はイザヤ書58:13で、安息日を「喜びの日」と呼ぶように、安息日を聖とするように、神を崇^{あが}めるように、自分自身の業をしないように、自分自身の言葉を語らないように、自分自身の「楽しみ」を行わないように語っておられます。

自分自身の「楽しみ」を求めてはならないという聖句をあなたはどのように解釈しますか。それは安息日に楽しいことをしてはならないという意味ではなく、自分自身の楽しみだけを行ってはいけないという意味です。

問1 イザヤ 58:14 は安息日を守る人への祝福がリストされています。今日、それらにどんな意味があるでしょうか。

「安息日を喜びの日と呼ぶとき、私たちは主を喜びとするようになります。主は私たちの思想・瞑想の喜ばしい主題として、また最高の愛の喜ばしい対象として、ご自身をさらに啓示してくださいます。……喜んで義務を果たすとき、私たちの心は満ち足り、『ここにいることは素晴らしい、神に近づくことは素晴らしい』と言うようになります」(「イザヤ書58:13、14」『マシュー・ヘンリー全聖書注解』1197ページ)。

◆ 安息日の重要な点は、それが神の戒めの一つであると同時に、体験でもあるということです。安息日の祝福は体験によって理解されるものです。私たちセブンスデー・アドベンチストは安息日を、またそれ以上に“安息日の主”を喜びとする必要があります。私たちはどんな実際的な方法によって個人として、教会家族として、安息日の経験をより豊かなものにすることができのでしょうか。

NOTE

神は安息日を喜ぶように語られました。そのためにはまず安息日を守ることです。物理的、霊的備えをすることも必要でしょう。安息日を私たちと神様、家族、隣人との関係を強める楽しい日としましょう。神が望みたまうようにこの日を過ごしましょう。神はその他にも尊い祝福の約束をお与えになりました。すべてのよいものを与えてくださる神様に感謝する日にしましょう。

 もっと深く学びたい方へ

『教育』第7章（品性の形成）第5節の「安息日」を読んでみましょう。

「安息日が近づくと、私たちは祝い、交わるために王族、すなわち大いなる王、全能者を迎えて、共に過ごす、あるいは共に過ごさせていただくのです。このように考えるとき、安息日に備えることが特別な歓喜をもって戒めを守る気持ちから、喜びに満ちた期待を持ち、王族の到着を迎える気持ちへと変わるのではないのでしょうか。このように考えるとき、安息日を遵守することが律法主義的な義務から優美な喜びへと変わるのではないのでしょうか」（リチャード・デヴィドソン『安息日賛歌』21、22ページ）。

ディスカッション

聖書は安息日の守り方について細かく書いていません。そのため多くの議論があり、意見の違いがあり、ユダヤ人の間でも激しい論争があり、アドベンチスト教会員同士で互いに批判することさえあります。教会は守り方のガイドラインをどのように考えたらいいのでしょうか。それを作ることの危険、作らないことの問題点を考えてみましょう。

ミニガイド

『教会へのあかし』（英文、第6巻349～368ページ）には安息日遵守について書かれています。その一部を紹介しますと、

安息日を守ることは大きな祝福があります。神は安息日が私たちの喜びの日になることを望まれます。(349 ページ)

十戒の中で第4条にのみ偉大な律法の付与者、天地の創造者の印が含まれています。(350 ページ)

安息日は神と人とを一つにする黄金の留金です。(351 ページ)

安息日の備えの日に注意しなければならないもうひとつの仕事があります。この日に家族や教会などの兄弟姉妹の間のすべての争い、行き違いなどを片付けておきなさい。すべての憎しみ、怒り、悪意は心からなくしておきましょう。(356ページ)

安息日学校や礼拝は安息日の一部にすぎません。両親は子どもと一緒に多くの時間を過ごさない。(358 ページ)

安息日の説教は短くし、神を愛する人々に感謝と賛美をささげる機会を与えなさい。(361 ページ)

だれも礼拝の場に居眠りをするために来てはなりません。日常の仕事をするとき、その仕事に関心があるので居眠りをしないでしょ。永遠の関心事を扱う礼拝が日常の出来事の下に置かれるようなことがあってよいでしょうか。(361ページ)

地上の教会は高き神の教会と一つです。地上の教会員は天において墮落したことの無い天使たちと同じ教会を形づくっているのです。すべての天の存在は神を礼拝する聖徒たちの集会に関心を持っています。私たちすべてが、天が今地球上に近くあることを感じるができますように。(366 ページ)

神は私たちがまったき愛の性質を養って神の家に集うことを教えておられます。(368 ページ)



第5課

8月4日

第一天使のメッセージ

●暗唱聖句●

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』」 (黙示録 14：6、7、口語訳)

「わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告知知らせるために、永遠の福音を携えて来て、大声で言った、『神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい』」 (黙示録 14：6、7、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

7月28日

今週は“現代の真理”の今日的な意味、第一天使の使命と福音、裁き、創造主への礼拝との関係について学びます。

意味あるメッセージ 「全く意味もなく、遠い宇宙の片隅にひとり取り残されている自分自身を見ることほど奇妙なことはない」とピーター・バーガー（評論家）は言いました。私たちが生存するこの宇宙は、絶えず私たちを心にとめ、その存在に目的と意味を与えておられる愛の神によって創造されました。黙示録 14 章の三天使のメッセージは私たちに対する愛、約束、警告の言葉で満ちています。特に第一天使のメッセージは礼拝、裁き、創造に関する「永遠の福音」について教えており、私たちの存在に意味、希望、尊厳、目的を与えるものです。このメッセージの中に、人に対する神の深い関心が、また天と地の密接なつながりが現されています。このことから私たちが遠い宇宙の片隅にひとり取り残された孤独な存在であるどころか、愛に満ちた神の関心の中心にあることがわかります。

日曜日

永遠の福音

7月29日

NOTE

「わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て」（黙示14：6）。

私たちアドベンチストは黙示録14章の三天使のメッセージを宣べ伝えるように召されています。このメッセージは、ほかの時代ではなく特にこの時代のためのものという意味で、「現代の真理」（Ⅱペト1：12 参照）と呼ばれることがあります。主は創世記3：15でアダムとエバにその時代のための特別な使命を与えました。ノアの時にはその時代のための特別な使命がありました。同じように、バプテスマのヨハネ、パウロ、マルチン・ルターも、その時代にふさわしいメッセージを与えられていました。

問1 主のしもべたちによって各時代に強調された“現代の真理”の特徴を考えてみましょう。それぞれメッセージは違っていても、すべてに共通する点があります。何でしょうか。（ヒントは黙示録14：6）

ヨハネは、天使が「永遠の福音」を携えていると言っています。「永遠の」とは「不滅の」、「すべての時代のための」という意味です。このメッセージの中心であり、“現代の真理”とされるのはイエス・キリストの救いという福音です。人類に対する神のメッセージがどのような背景において語られようとも、それはつねに世の罪のために死なれたイエスに中心を置いています。メッセージの中心はイエスであり、時代や状況にかかわらず、私たちの唯一の希望であるということです。三天使のメッセージが「永遠の福音」をもって始まっているのはそのためです。黙示録13：8ではキリストを「天地創造の時から、^{ほふ}屠られた小羊」と表現しています。

◆ 三天使のメッセージは「永遠の福音」をすべてに優先させることを教えています。たとえば安息日、死後の状態、再臨といった重要な教理をこの福音より優先する危険性が私たちにあるでしょうか。

NOTE

もしこの時代のための「現代の真理」が「永遠の福音」をもって始まるとすれば、私たちはまず福音を理解する必要があります。私たち自身が福音を理解していないで、どうしてそれを宣べ伝えることができるでしょう。

福音とは「良い知らせ」という意味です。それは救いの歴史における中心的な出来事、つまりイエスが私たちの罪のために十字架で死に、それによって私たちに永遠の命が与えられるようになったことを指しています（ロマ5：10、11、21参照）。人間には永遠の命か、永遠の死かの二つの選択肢しかありません。永遠の命以外の道はすべて永遠の死につながります。中立の立場はありません。したがって「福音」とは、キリストの十字架が信仰によって求めるすべての人に永遠の命を与えるということです。

問1 なぜパウロは「十字架につけられたキリスト以外、何も知るまい」と決心したのでしょうか。1コリ2：2

人類の墮落後、神には一つの問題が残りました。神は正義をもって罪を罰することもできれば、憐れみをもって罪を赦すこともできました。しかし、正義と憐れみを同時に満たすことができるでしょうか。十字架上のキリストがその解答でした。神は私たちの代わりにイエス・キリストを十字架につけ、罪を罰することによってご自身の正義と憐れみを示されました。キリストの死において神の正義と憐れみは最高潮に達しました。「御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです」（ロマ3：26）。ここに「永遠の福音」の本質があります。三天使のメッセージに含まれるいかなる教理を宣べ伝えるにしても、「イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト」はその中心となるべきものです。

◆ 「福音には栄養と豊かさがあります。イエスはすべてのものの生きた中心です。イエス・キリストの尊さ、あわれみ、栄光をいつも考えてください」（『セレクトッド・メッセージ』1・210ページ）。

火曜日

神の裁きの時

7月31日

「大声で言った。『神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい』」（黙示14：7）。

NOTE

第一天使は「永遠の福音」を宣べ伝えた後で、裁きの時が来たと宣言しています。このことから、福音が裁きと結びついていることがわかります。二つとも同じメッセージの中に含まれています。裁きの思想は、福音がはっきりと示されている新約聖書を含めて、聖書全体に流れています。裁きは福音と矛盾するものではありません。事実、第一天使のメッセージ全体を読むと、裁きが永遠の福音の一部であることがわかります（ロマ2：16 参照）。

問1 裁きの積極面を理解させてくれるのは次の聖句です。

ダニ7：22 _____

イヨハ4：17 _____

ロマ8：1 _____

ヘブ7：25 _____

聖書は「すべての人が裁かれる」と教えています。しかし、決定的な違いがあります。キリストにある人たちのためには、身代わりとなって裁かれるお方、すでに彼らの罪のために刑罰を受けられたお方がいます。現在も、そして将来も、彼らが罪に定められることがないのはそのためです。これはすばらしい福音です。「これほど大きな救い」（ヘブ2：3）を提供してくださった神に信仰と服従をもって献身しないでおられましょうか。

◆ ベニーは忠実なアドベンチストの両親によって育てられましたが、裁きのことを思うとなぜか平安や確信がありません。彼はいつも自分が永遠に失われるのではないかという不安の中で生きています。今週の研究はベニーのような人を助ける上でどんな役に立ちますか。

NOTE

問1 第一天使のメッセージには創造主を礼拝するようにと書かれています。真の礼拝の定義は何でしょうか。ヨハ4:23、24

礼拝は神に心から献身し、忠誠を尽くすことです。ヨハネ4:23で礼拝の意味に用いられているギリシア語は、「敬意を表する」、「ひれ伏す」とも訳すことができます。それはまた謙遜、崇敬、敬慕に満ちた態度を含みます。礼拝はクリスチャンが捧げることのできる最もうやうやしい行為です。それは心から神に応答し、主に全く自己を明け渡す霊的経験です。

イエスはサマリアの女との対話の中で(ヨハ4:4～24)、礼拝に必要な二つの要点を強調されました。イエスは「真理」と「霊」をもって礼拝することについて語られました。誠実さは大切ですが、それだけでは十分ではありません。神についての真理を知ることとはまことの礼拝への道を備えます。私たちの神についての考えは神との関係を決定し、神との関係は私たちの神に対する礼拝の仕方を決定します。イエスが強調された第二の点は「霊」です。本当の意味で神を礼拝するために神との霊的な関係が必要です。聖霊は私たちをまことの礼拝に導いてくださいます。

問2 “礼拝”は黙示録の中の重要な語句で、特に13～14章に集中しています。誰を礼拝するのかを読んでください(14:7～11)。

獣の権力は礼拝を要求しています(黙示13章)。彼らは竜、獣、獣の像を拝まない人たちに対して“経済封鎖”さえ行います。この権力は“竜”を拝まない人たちに死刑を宣告します。神を信じていない「地に住む人々」は獣に従います。しかし神だけを礼拝する忠実な民がいます。神を礼拝するようにとの訴えは、命を与え、命を支える神との関係に入るようにとの招きです。

◆ あなたの礼拝の質を採点してみてください。教会での礼拝はいかがでしょうか。それはあなたとイエスとの関係を深める礼拝でしょうか。

木曜日

創造主なるお方

8月2日

NOTE

アドベンチストが三天使のメッセージを宣べ伝え始めたのは19世紀の半ばでした。それはチャールズ・ダーウィンが進化論を広めた『種の起源』の出版によって多くの人々に影響を与え始めた時期とほぼ同じ頃でした。

このような背景の中で、第一天使のメッセージは創造主を礼拝するように呼びかけています。創造主の創造の御業は創世記に詳しく描かれています。第一天使のメッセージは進化論を真っ向から否定するものです。第一天使は無神論的な各種の進化論と違って、万物の起源についての別の理解を提示しています。

問1 神による創造を否定する説や理論が一般社会にあり、キリスト教会にも広がっています。アドベンチストが現代において妥協することなく明確に第一天使のメッセージを伝える意味があるでしょうか。

多くの人々は、進化論という“教理”または“信仰”がキリスト教の教えと矛盾しないと考えています。進化論の教理をキリスト教信仰と結びつけようとするのは、神による天地創造の記録を信じていない人たちです。

「神を礼拝する義務は、神が創造主であり、他のすべてのものはその存在を神に依存している、という事実に基づいている。そして、聖書の中で、異教の神々にまさって神が崇敬と礼拝を受けるべきであると示されているときは、常に、神の創造の力がその実証としてあげられている。『もろもろの民のすべての神はむなし。しかし主はもろもろの天を造られた』（詩篇96:5）。『聖者は言われる、「それで、あなたがたは、わたしをだれにくらべ、わたしは、だれにひとしいというのか。」目を高くあげて、だれが、これらのものを創造したかを見よ。』『天を創造された主、すなわち神であって、……地を……造られた主はこう言われる、「わたしは主である、わたしのほかに神はない。』（イザヤ書40:25、26、45:18）」（『各時代の大争闘』下巻155ページ）。

◆ 進化論を教える学校に通う子どもたちに、どのようにして神による創造の信仰を教えたらいいでしょうか。

NOTE

神は各時代に“現代の真理”を持っておられました。特殊なメッセージが何であろうと、人類史の中心真理は“十字架につけられたキリスト”です。第一天使のメッセージも“十字架につけられたキリスト”で始まります。十字架が他の教理や真理の根源だからです。第一天使のメッセージに「裁き」がありますが、信じる者にはキリストこそ仲保者、弁護者、身代わりとの“よい知らせ”があります。第一天使のメッセージは「礼拝せよ」ですが、私たちの真心を誰に与えるかを示すものです。礼拝は私たちの心の外的表現です。礼拝は「天と地を造られた」お方への礼拝であり、クリスチャンの信仰を弱める進化論が受け入れられている今日に特に重要なメッセージです。第一天使のメッセージが“現代の真理”と呼ばれる理由があることがわかります。

 もっと深く学びたい方へ

今週の研究に関連して、次の聖句を読んでください。ヨシュア記 24：14、15、詩編 5：8（口語訳 5：7）、29：1、2、33：6～9、95：1～8 『セレクトッド・メッセージ』（英文）第2巻104～107ページ（広い意味での三天使のメッセージ）を読んでください。

「神の栄光を現すとは、私たち自身の品性において神の品性を現すこと、そしてそれによって神を知らせることです。どんな方法で父なる神または御子を知らせようとも、私たちは神の栄光を現すのです」（『SDA聖書注解』7巻979ページ、エレン・ホワイト注）。

ディスカッション

- (1) 第一天使のメッセージは世界的な広さと規模のメッセージであることがわかります。海外伝道を支えることの重要性があるのではないのでしょうか。
- (2) 礼拝の喜び、自由の心を壊すことなく、教会での敬虔さを教える方法があるのでしょうか。
- (3) 第一天使のメッセージをクリスチャンでない人々に関連づけて伝える違った方法があるのでしょうか。

ミニガイド

アドベンチストの先駆者たちは熱心に預言の研究を行いました。黙示録を勉強した彼らは、14章と18章に全世界に警告する天使によるメッセージに注目し、これ以外、またこれ以降にないことから、これらを神よりの最後のメッセージと理解し、その宣教が残りの教会に託された主要な任務と考えました。

『アドベンチストの信仰』（281 ページ）は第一天使のメッセージを解説して次のように書いています。

「第一の天使は、永遠の福音を世界に伝える神の残りの民を象徴しています。この福音は、昔の預言者や使徒たちが宣べたのと同じ神の無限の愛の良きおとずれです（ヘブル4：2）。残りの教会は異なった福音を提示しません。すなわち、さばきの点において、彼らは、罪人は信仰によって義とされ、またキリストの義を受けることができるというあの永遠の福音を再確認するのです」

同書は次の諸点も強調しています。

「このメッセージは世界に悔改めを求めています」

「『神のさばきの時』がきたという事実は、悔改めへの招きに緊急さを加えます」

「このメッセージはまたすべての人が創造主を礼拝するように招いています。礼拝への神の招きは、獣とその像を礼拝せよという要求と対照して考えなければなりません。まもなく各人は、真と偽りの礼拝、すなわち、神の方法（信仰による義）で神を礼拝するか、または自分の方法（行いによる義）で礼拝するか、の選択をしなければならないでしょう」

「最後に、この使命は、『不法の者』（Ⅱテサ2：3）によって踏みにじられてきた神の聖なる律法の名誉回復を示しています」

日本人の多くは神道、仏教をはじめ、さまざまな新宗教、占いを信じ、お金や経済力、家族、繁栄、名誉、地位、快樂、物質主義などを“礼拝”する人たちがいます。聖書にある“天地創造、唯一、真の救いの神”がおられること、そのお方を“礼拝”することを伝えるのが日本のSDA教会に与えられた第一天使のメッセージと考えてはいかががでしょうか。



第6課

8月11日

忠誠が試される時

●暗唱聖句●

「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」
(黙示録 14：12、口語訳)

「ここに、神の^{おきて}掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である」
(黙示録 14：12、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

8月4日

第二天使のメッセージはバビロンについての警告ですが、すでに歴史から消滅した古代バビロンでないことは明らかです。最後の時代、互いに戦い合う二つのグループに分けられるでしょう。もし私たちが信仰によって救われるなら、律法はどんな意味があるのでしょうか。

礼拝者たち ロシアの作家ドストエフスキーは、「人間は何かを礼拝しないでは生きられない」と言いました。黙示録 14 章の第二、第三天使のメッセージ(今週の研究)は、まさにその通りであることを教えています。なぜなら、世界のすべての人が自分の礼拝するものを決定する時がまもなくやってくるからです。

第一天使のメッセージは創造主を礼拝するように呼びかけていますが、第二、第三天使のメッセージはそれ以外のものを礼拝する人々に警告を発しています。第三天使もはっきり描写しているように、彼らの運命は決して幸せなものではありません(黙示 14：10、11)。

しかし、これらの天使は同時に、世の圧迫に屈することを拒む人たちについて、また信仰と服従によって天と地の創造者を礼拝することを示す人たちについて描いています。このような違いはどこから来るのでしょうか。

日曜日

大バビロン

8月5日

NOTE

イギリスの作家チャールズ・ディケンズは『二都物語』を書きました。ある人は、聖書そのものがまさにエルサレムとバビロンについての真の『二都物語』であると言います。もしエルサレムが「霊と真理をもって」(ヨハ4:23) 真の神を礼拝する人々の象徴であるとするなら、バビロンはだれ(何)の象徴でしょうか。黙示録14章の第二天使のメッセージが「大バビロン」の崩壊について警告していると考えれば、この疑問に答える必要があります。

問1 黙示録14:8と18:1～10を比較すると、内容は同じですが、後者はさらに詳しく書いています。バビロンの特徴をいくつか挙げてみましょう。

黙示録において、バビロンは「古代から終わりの時に至るまでのすべての背信的な宗教組織とその指導者の象徴です」(『SDA 聖書注解』7巻830ページ)。このような象徴が用いられているのは、バビロンが旧約聖書の中で神の民エルサレムを迫害した巨大な宗教的・政治的組織でもあるからです。神の民が主の奇跡的な介入によって救出される一方、エルサレムよりもはるかに巨大で強力なバビロンは最終的に倒れ、滅亡しています。この象徴がいかに適切なものであるかを理解するために、旧約聖書にある字義的バビロンの運命を霊的バビロンの運命と比較してください(イザ47:1、エレ25:12、50:1、黙示16:12～21参照)。

◆ 「すべての宗教は神に至るための異なった道に過ぎない」と言う人たちがいますが、聖書は偽りの宗教があること、またかかる宗教は究極的に滅亡すると教えています。しかし、私たちは人々を真の宗教に属する人と偽りの宗教に属する人とに分類しないように注意する必要があります。黙示録18:4を読んでください。この聖句は「バビロンの中にいる」人々を裁くことに関して何を教えていますか。

NOTE

第二天使がバビロン崩壊を宣言した後、第三天使が獣とその像を拝む人たちへの神の裁きを宣言しています。この獣は黙示録 13:1～10 に描かれているものと同じで、何世紀もの間、キリスト教世界を支配してきた“教会と国家の連合体”を象徴しています。パウロとダニエルがこの獣について述べていることに注目してください（Ⅱテサ 2:2～4、ダニ 7:8、20～25、8:9～12）。信仰による義の真理から離れた諸教会が国家と連合して、誤った信条を国の法律とすると、両者は獣の像を形成します。

問1 第三天使のメッセージはどんな二つのグループを書いていますか。何が争点になるのでしょうか。黙示 14:9、12

「一方のグループは人間が考え出した福音を鼓舞し、獣とその像を拝み、その結果重大なさばきを自らにもたらします。……最後の争点には、真の礼拝と偽りの礼拝、真の福音と偽りの福音などが含まれます。この問題がはっきりと世に提示されるそのとき、日曜日が神の指定された礼拝日ではないことを知りながらも、それを拝み尊び、神の創造の記念である聖書の安息日を拒む人々は、『獣の刻印』を受けることになります。この刻印は反逆の印であり、獣は、その礼拝日の変更は、神の律法にさえまさる権威を自ら有しているものであることを示していると主張します」（『アドベンチストの信仰』286 ページ）。

これとは対照的に、第三天使のメッセージに出てくるもう一つのグループは、「神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける」人たちです（黙示 14:12）。救いの唯一の望みであるキリストの義を信じるゆえに、彼らは神を愛し、神を愛するゆえに、彼らは神の掟を守ります（Ⅰヨハ 5:2,3）。

◆ 離婚したミゲルはアドベンチスト教会を離れました。彼は今でも SDA の教理をすべて信じていますが、当分は教会とかかわりたくないと言っています。でも迫害が始まったなら、彼はまた教会に加わり、戒めを守るつもりでいます。こう考えることは正しいと思いますか。

火曜日

神の掟とイエスに対する信仰— 1

8月7日

問1 次の聖句を読み、神を愛すること、その戒めを守ることの関係を調べてください。

申命 11 : 13 _____

申命 11 : 22 _____

申命 19 : 9 _____

ヨハ 14 : 15 _____

I ヨハ 5 : 2、3 _____

NOTE

旧約は「律法遵守」、新約の中心は「愛」という人があり、新約時代に必要なのは神を愛すること、と言う人がいます。ところが上記の聖句を読むと、神を愛することと神の戒めを守ることとに密接な関係があることがわかります。神を愛すると口で言うことは簡単です。重要なのは服従によってその愛を証明することです。

問2 上記の聖句を頭に入れて「愛は律法を全うする」(ローマ13:10) の意味を考えてください。ローマ13:8も見ましょう。

第三天使のメッセージは、全く対照的な二種類の人々を示しています。中間、中立の立場はありえません。あるのは獣とその像を拝む人たちと創造主を拝む人たちだけです(黙示14:6～12)。二つのグループを分けるのは「神の掟」を守るか否かです。この場合の神の掟とはそのすべてを意味します。ヤコブが言っている通りです。

「律法全体を守ったとしても、一つの点でおちどがあるなら、すべての点について有罪となるからです。『姦淫するな』と言われた方は、『殺すな』とも言われました。そこで、たとえ姦淫はしなくても、人殺しをすれば、あなたは律法の違反者になるのです」(ヤコ2:10、11)。

◆ 最後の危機において、神を愛することが重要なのはなぜですか。マタイ22:36～38はこの点に関して何と教えていますか。あなた自身の生き方を反省し、もし本当に神を愛しているなら、どのようにその愛を表しているかを確認してください。

NOTE

第三天使のメッセージは終わりの日に救われる人々と滅びる人々とを対照的に描いています。救われる人々に見られる二つの基本的な特徴は「神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける」(黙示14:12)ということです。この掟は旧約聖書の中で神の指によって石の板に刻まれ、新約聖書の中でキリストの人格において完全に現された道德律をさしています。

問1 「イエスに対する信仰」とは何でしょう。

第三天使のメッセージは、神の聖なる者たちを区別する重要な特徴として、律法に対する従順とともに「イエスの信仰」をあげています。この言葉はローマ3:21, 22にも用いられています。「ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です」。

この文脈では、「イエスの信仰」とはイエスに対する信仰を意味し、多くの人が同じ解釈をしています。私たちが神の戒めを守ることができるのは、イエスを信じる信仰によってのみだからです。ほかに、「イエスの信仰」をイエスに関する教理や教えと解釈する人もいます。さらに、「イエスの信仰」を、イエスご自身が地上で現されたような信仰を实践することと解釈する人もいます。

問2 もう一度黙示録14:12を読んでみましょう。どの解釈がよいと思いますか。そのうちの一つでなく全部を含むと思いますか。

「イエスの信仰」をどのように理解しようとも、終わりの日に立つのは忠実にイエスに従う人たち、すなわちイエスを知り、イエスを愛し、イエスに信頼する人たち、また全世界が敵対するときにもイエスに救いと「神の掟を守る」力を求める人たちであることは明らかなです。黙示録14章は調和のとれた信仰と行いについて教えています。神を愛し、神を信じる信仰を持つ人たちは、神の戒めに従った行いをすることによってその愛と信仰を表します。

木曜日

律法、福音、終わり

8月9日

NOTE

「なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです」（ロマ3：28）。

「命の木に対する権利を与えられ、門を通して都に入れるように、自分の衣を洗い清める者は幸いである」（黙示22：14）。

第一天使のメッセージは「永遠の福音」をもって始まっています。福音とは、イエスが神の律法を破った私たちのために代わって死の罰を受けてくださったゆえに救われるというすばらしい知らせです。人となられたキリストが私たちに代わって律法の要求を満たしてくださいました。第三天使のメッセージは神に忠実に従う人々を、掟（戒め）を守る人々と描写し、獣の刻印を受ける人々と非常に対照的です。言い換えれば、終わりの日にイエスにあって律法に従う人々は救われ、律法を無視する人々は滅ぼされるということです。

問1 「人はイエスの信仰によってのみ救われ、律法への服従によらない」「神の印か獣の印を受けるかは安息日遵守による。それが救いの決定要素となる」——この二つの文を信仰と行いの関係において考えてください。どう考えれば両者の調和は可能ですか。

ヤコブ2：18がこの疑問に対する答えとなります。行いは決して人を救いません。しかし、信仰は行いによって表されます。最後の時代に生きている人々も同じ方法によって救われます。それは救い主イエスを受け入れることです。

イエスは私たちの救い主であるだけでなく、私たちの主でもあります。私たちはイエスのすべての戒めに従うことによって、イエスが私たちの主であることを生活の中で表します。獣の刻印を拒む人たちが救われるのは、彼らが安息日を守るからでなく、ほかの「神の掟」を守るからでもありません。彼らが救われるのは、キリストが彼らの救い主として成し遂げてくださった御業のゆえです。彼らはその救いに対する愛の応答として、イエスが自分の主であることを人々の前で証明します（エフェ3：10、マタ5：16）。彼らは厳しい迫害の中でも主に従います。

NOTE

終末の日に二つのグループが存在します。霊的バビロンに生きる人と霊的エルサレムに生きる人です。人は誰を礼拝の対象とするかによってそれぞれの市民権を得ます。神の民は神への愛を服従によって表し、創造主を礼拝します。「神を愛するとは、神の掟を守ることです」(Ⅰヨハ5:3)。

 もっと深く学びたい方へ

ダニエル書3章と6章を読み、ダニエルと彼の仲間の忠誠によって危機に直面したときに何が起こったか調べてください。彼らの経験はどんな助けになりますか。

『各時代の大争闘』下巻35章(良心の自由の危機)、38章(世界への最後の警告)を読んでください。

「安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。最後の試練が人々を襲うとき、神に仕える者と神に仕えない者の区別が明らかになる。第4条の戒めに反して、国家の法律に従って偽りの安息日を守ることは、神に敵対する権力に忠誠を尽くすという表明であり、一方、神の戒めに従って真の安息日を守ることは、創造主に対する忠誠の証拠である。一方は、地上の権力に服従するしるしを受け入れることによって、獣の刻印を受け、他方は、神の権威に対する忠誠のしるしを選んで、神の印を受けるのである」(『各時代の大争闘』下巻375ページ)。

聖書は律法が罪を示すと述べています(ロマ7:7)。言い換えれば、律法のないところには罪も実在しません。罪が存在し続ける限り、律法も存在し続けるということになります。

◆ 聖書は明確に教えているにもかかわらず、多くの人々はバビロンの罪に誘われていきます。バビロンにいる人たちへの私たちの責任は何でしょうか。

ミニガイド

【エレン・ホワイトのコメント】

アドベンチストは聖書研究の中から預言的な信仰を基本に教会を形成しました。先輩たちは黙示録にある三天使のメッセージを“現代の真理”と理解し、(1) 神の戒めを守れ、(2) 偽りの教会を出よ、(3) 土曜日安息日を守れと強調し、聖書の安息日への忠誠が最終時代の信仰の試金石、テストと考えました。

一方、『各時代の大争闘』は次のようにも書いています。

「しかし、過去においては、**聖書の安息日を守っていると信じて、日曜日を守ってきたキリスト者がいた**。また、日曜日は神が定められた安息日であると心から信じている真のキリスト者たちが、今も各教会におり、ローマ・カトリック教会も例外ではない。**神は彼らの真剣な心と神の前での誠実さを受け入れられる**」(下巻 170、171 ページ)。

また、エレン・ホワイトは 1899 年に次のようにも書きました。

「**日曜日遵守はまだ獣の印となっていない**。誤った安息日に礼拝するようにとの布告が出されるまでは印とはならない。**やがてこの日が信仰のテストとなる日が来るが、その時はまだ来ていない**」(『書簡』118 号)。

「**この問題が人々の前に明らかに示されて、神の戒めと人間の戒めのどちらかを選ばなければならなくなったとき、それでも神の戒めを犯し続ける人々が『獣の印』を受けるのである**」(『大争闘』下巻 171 ページ)。

【今、土曜日安息日を守る意味】

土曜安息日を守ることは重大な意味があります。私たちは聖書の信仰に忠実に生きる信仰者でありたいと思います。私たちはイエスが教えたように安息日の霊性を尊び、神中心の遵守をしているでしょうか。ファリサイ人ら当時の宗教指導者たちは、外見は守っていましたが、安息日によこしな思いを持ち、その日にキリストを殺すことを考えていました(マタ 12:14)。

やがて世界のすべての人が土曜日か日曜日かを知り、選ぶ時が来るでしょう。その日、多くの人たちが土曜日に礼拝するセンブンスデー・アドベンチストのことを思い出して、真理に従うと誓います。私たちは今、聖書の教える日を守り、その日をイエスが教えたように尊んでいる、その証しをしていると考えてください。



神の賜物としての不死

● 暗唱聖句 ●

「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである」(I コリント 15: 22、口語訳)

「つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです」

(I コリント 15: 22、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

8月11日

サタンがエバに語った最初のうそ、人ははたして靈魂不滅なのか、人は死後ただちに永遠の報酬か刑罰を受けるのかななどを学びます。

墓のかなた 19歳のカテリーナは福音派の教会に行っています。彼女の母親は信仰を持たず、気ままな生活を送っています。カテリーナが福音を伝えようとしても、「真理なんて自分で作り出すものよ。人は死ねばみんな同じ所に行く。信じたからってどうにもならない」と母は言います。カテリーナの母親はその後、キリストを信じないまま事故で亡くなりました。

ある日、カテリーナは「墓のかなた」という題の説教を聞きました。牧師は、地獄の火の中で絶えまなく苦しむ罪人を語りました。彼女は説教を最後まで聞くことができませんでした。自分の母親が神の果てしない怒りの炎の中で苦しんでいる姿を思って、彼女は身震いしました。

翌日、彼女は友だちでクリスチャンのレニーに悩みを打ち明けました。レニーは慰めるように次のように言いました。「カテリーナ、あなたのお母さんは地獄の火で焼かれてなんかいないわ。お母さんが今どこにいるか知りたいと思う?」。カテリーナはうなずきました。カテリーナはレニーからどんなことを教えてもらったと思いますか。

日曜日

神になろうとする人間

8月12日

「人の罪は自分を神にしようとするにある」(ラインホルド・ニーバー)。

NOTE

神は「御自分にかたどって」人間を創造されました(創世1:26～28)。なんという栄誉、特権でしょう。哲学者や科学者は人間が「理性を備えた動物」と言い、人間とカエルとの本質的な違いは、人間が進化の段階の少し上にいるというわけです。これは真理ではありません。

神にかたどって造られていても人間は神ではありません。神の像に造られていますが、そのことと神であることは違います。

エバに対する蛇の言葉(創世記3:5)を読んでください。蛇はエバに、その木の実を食べると「神のように」と言いました。エバは蛇の言葉に従ったので、神のかたちは汚され、逆に神に似ない者となりました。エバがサタンに従ったのは、「神のように」になりたいという思いが彼女のうちにあったからです。

問1 これはエバだけでなくすべての人に共通な問題です。次の聖句を読みましょう。

イザ14:13、14 _____

IIテサ2:3、4 _____

「神のように」と望む人間はサタンの特徴を表しています。サタンの罪は「神ご自身の高みにまで登ろうともくろんだ」ことにあります(『預言の霊』1巻18ページ)。人はあからさまに神のようになりたいとは言いませんが、物事を自分の思い通りにやろうとするとき、自分で規則を作るとき、自分で善悪の基準を定めるとき、彼らはある意味で自分自身を神としているのです。神に結ばれているとき、私たちは神の本質的な特徴の一つである永遠の命の約束にあずかります。しかし、自分自身を神とするとき、私たちはこの約束を失います。

◆ 自分が神のようになろうとするとどんなことでしょうか。

NOTE

問1 最初のうそについての聖書の記録が創世記3：1～7にあります。注意深く読んでみましょう。

「決して死ぬことはない」（創世3：4）は第2のうそです。第1のうそは1節にあるサタンの次の質問です。「園のどの木から食べてはいけない、などと神は言われたのか」。神はそのようなには言われませんでした。神が言われたのは、1本を除いて園のどの木から食べてもよいということでした（創世2：16、17）。サタンがこの第1のうそを用いたのは、最大の、最も危険な第2のうそへの道を備えるためでした。エデンの園でエバに対して用いたのと同じ虚偽と狡猾さをもって、彼は今日もこの偽りを宣伝しています。サタンの第1のうそは第2のうそへの道を備え、第2のうそは第3のうそ、つまり神の命令に背くことによって「神のように」といううそへの道を備えました。

問2 「決して死ぬことはない」との言葉には「いつまでも生きられる」との反語が隠されています。サタンのこの偽りにはどんな甘い誘いがあったと思いますか。

サタンの偽りの中で最大のものは、人間が死後も生き続けるというものです。これはクリスチャンを含めて多くの人に受け入れられている考えです。しかし、聖書には、死は“眠り”として表現されています（ヨブ14：12、コヘ9：5、6、10、詩6：6——口語訳6：5、115：17、146：4参照）。今日、ほとんどの書物、映画、テレビは何らかのかたちで、サタンがエデンの園でエバに語った言葉を繰り返しています。人間が死後も何らかの形で生き続けることを証明しようとする科学的な研究がなされているほどです。

◆ 死後の生命に関する誤った考えが世に広がっています。死後の状態を正しく知るクリスチャンはどのようにしてこのような圧倒的な偽りから自分自身を守ることができるでしょうか。死者が生き続けると信じることにはどんな危険があると思いますか。

火曜日

神の賜物と罪の報酬

8月14日

NOTE

神だけが不死をお持ちです（Ⅰテモ6：16）。神は命の創始者であり、維持者です。何者も神を離れて生きることはできません。クリスチャンは不滅のものを求めていると言われています（ロマ2：7）。このことは、多くの一般書や宗教書に書かれているのとは対照的で、人は生まれながらに不滅のものを持っていないことを示しています。

問1 死ぬべき命であっても、新生したクリスチャンはどんな賜物を受けているでしょうか。ヨハ5：24、ロマ6：23

救い主キリストは永遠の命をお持ちです。私たちが受ける永遠の命は、キリストの身代わりによって^{あづかる}賜与されるものです。その命を持つ者も、この世では死の眠りの法則に従わなければなりません。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる」（ヨハ11：25）。キリストは、「わたしを信じる者は、死んでもなお生き続ける」と言われたのではなく、信じて死んだ人たちを復活の日によみがえらせると言われたのです（ヨハ5：28、29参照）。

今も主にあって永遠の命を持っているということは、人が死後すぐにキリストと共に天国に行くという意味ではありません。そうではなく、たとえ墓の中で「眠り」につかなければならないとしても（ルカ8：52、ヨハ11：11～14、エフェ5：14）、私たちにイエスが来られるときに復活するという約束が与えられているという意味です。

多くのクリスチャンは、義人が死ねばすぐに天国に行き、悪人はすぐに地獄に行くと言っています。この教えにはいろいろな問題がありますが、最大の問題は「人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである」（マタ16：27）というキリストの言葉とどう調和させるかです。死者が墓の中で眠っているなら理解しやすいのですが、死者がすでにその報いにあずかっていると考える人たちにとっては難題です。

◆ 死後すぐにその報いを受けるとすれば、ほかにどんな矛盾が出てきますか。

NOTE

キリストはクリスチャンの命そのものです。キリストは聖霊によって私たちの心の中にお住みになります。「御子と結ばれている人にはこの命があり、神の子と結ばれていない人にはこの命がありません」(Ⅰヨハ5:12)。私たちは生物学的、感情的、知的に生きていても、命の源、価値、目的に対してはなお死んでいることがあります。パウロは「自分の過ちと罪のために死んでいた」と告白しました(エフェ2:1)。

「クリスチャンの恵みと経験の総体・実体は、キリストを信じること、神と神が遣わされた御子を知ることに含まれています。……品性に表された神とイエス・キリストを知ることが最高の教育です。それは天の都への扉を開く鍵です。キリストを着る者たちすべてがこの知識を身につけることが、神の目的です」(『神を知るために』104ページ)。

問1 イエスは歴史のどの時に^{あがな}贖われたものを復活させると言われましたか。Ⅰコリ15:22、23、51～55、ヨハ6:39、40、44

不死はキリストの再臨において、贖われた者たちに賜物として与えられます。彼らはそのとき病気、老化、疲労、衰弱のない、栄化された肉体で復活します。贖われた者たちはそのとき肉体的、霊的にも栄化されます。彼らはこの完全な状態において永遠の命(内なるキリストの命)と不死(キリストの体のように不朽の体、死のない状態—フィリ3:20、21)を与えられます。その日まで、彼らは平安に満ちた安息の中で眠ります。

◆ 1000年前にキリストを信じて亡くなった人も、2週間前に亡くなった人も、死そのものは同じように思われます。彼らが目を閉じて、その次に気がつくのは再臨において復活している自分の姿です。死者にとって、永遠の命はあたかも死の直後に訪れるかのように思われます。これこそ神の慈愛です。

木曜日

あがなわれた者、失われた者の復活

8月16日

問1 義人は最後の日に復活するのですが、それはいつですか。
I テサ 4 : 14 ~ 17、黙示 20 : 4 ~ 6

NOTE

義なる死者はキリストの再臨において復活し、栄化され、生ける聖徒たちと共に天国に入り、千年の間そこでキリストと共に支配します。これが千年期の始まりで、あがなわれた聖徒たちはその間、地上では理解できなかった多くの問題について理解する機会を与えられます（I コリ 4 : 5、6 : 3、黙示 20 : 12）。

問2 キリストは二つの復活を区別しました（ヨハ 5 : 29）。有罪とされた者の復活はいつありますか。黙示 20 : 5 ~ 9

千年期が終わると、主は聖なる者たちと共に地上に戻り、ご自分の真理と救いを拒んだ者たちを裁かれます（『各時代の争闘』下巻 446 ~ 460 ページ参照）。

失われた者たちがその復活において表す怒りと反逆は、神の栄光の現れでさえその心を悔い改めと義に導くことができないほどのものです（イザ 26 : 10、黙示 20 : 7 ~ 9）。彼らはサタン自身と同様、断固として神に反抗します。したがって、恨みと怒りに狂った者たちが神によって滅ぼされるのは、彼らにとっては憐れみなのです。

もし地獄が永遠に続くとすれば、悪が勝利したことになります。なぜなら、悪がいつまでも存在することになり、いわば罪人が命の木に近づくのを防いでいる、きらめく剣を持った天使（創世 3 : 24）の働きが失敗したことになるからです。

◆ シモン・ヴェイユは、「^{ふくしゅう}復活は本質的な釣り合いを保とうとする願望」と言いました。たいていの場合、人間の正義は偽りの釣り合い、偽りのバランスをもたらします。しかし、完全なる神は悪人の最終的な滅びにおいて完全な正義を実現されます。不正に満ちた現代の世界にあって、「地獄」（永遠の滅びであって、永遠の苦しみではない）という思想—神が最終的で完全な正義を達成されるという思想—をどう理解しますか。

NOTE

永遠の命、不死はキリストによる救いにとまなう神の賜物であり、人が本来持っていたものではありません。死は無意識の状態、聖書は眠りのようなものとしています。神の愛、救い、真理を拒む者は命をも拒むので、裁きの日に彼らは存在を失います。

 もっと深く学びたい方へ

ヨブが命、死、復活をどのように理解していたかを考えてください(ヨブ7:6～10、10:12、13:15、16、14:1、2、12～15、17:13、19:23～27)。『各時代の争闘』下巻33章(人は死んだらどうなるか)、34章(心霊術の正体)を読んでください。

「説教壇から説かれ、人々に受け入れられている永遠に燃える地獄は、神の慈悲深い品性を誤解させるものである。それは神を宇宙における最大の暴君として提示する。広く行き渡ったこの教義は、多くの人を普遍救済論、不信仰、無神論に導いている」(『教会へのあかし』第1巻344、345ページ)。

「心霊術が現代の名ばかりのキリスト教をますますそっくりまねるようになるにつれて、それは人々をだまし、わなにかけるのに、いっそう大きな力を持つようになる。サタン自身も、近代的な形態に応じて姿を変える。彼は光の天使を装って現われる。心霊術を通して奇跡が行なわれ、病人はいやされ、否定することのできない多くの不思議なことが行なわれる。そして悪霊が聖書に対する信仰を告白し、教会の諸制度に敬意をあらわすので、そうした霊の働きは神の力の現われとして受け入れられる」(『各時代の争闘』下巻350ページ)。

◆ 悪人への神の裁きは難解な問題です。悪人が最終的に滅ぼされるということは神の愛とどのように調和させることができるでしょうか。その反対に悪の刑罰がないとすれば、神の正義とどのように調和させることができるでしょうか。

ミニガイド

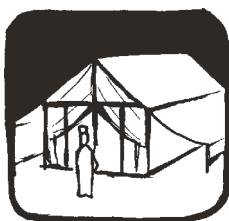
【アドベンチストの理解は条件的不死】

SDA教会は神のみが不死であり、キリストを信じる者が最終的に不死という賜物を受けるという条件的不死の教理を信じています。

オスカー・クルマンはスイスの新約学の神学者で、バーゼル大学、ソルボンヌ大学で教授を務めました。彼はキリスト教会全般が靈魂不滅を認めているのを批判してキリストにある復活という立場からSDA教会と同じく、キリストにある条件的不死説を取っています。クルマンは『靈魂の不滅か、死者の復活か』(1956年)を著し、靈魂不滅の思想は異教的ギリシャ哲学の影響をキリスト教が受けた結果であること、精神と肉体、心と体を分割する二元論は聖書になく、死によって肉体は朽ち、靈魂は生き続けるとの説を否定して、一方が死ねば一方も死ぬと主張し、復活は神の行う最大の超自然の奇蹟と位置付けたのでした。

一般教会では、神が創造当初に靈魂を創造され、同じ神が最後の審判で絶滅させるのは矛盾であり、神ご自身が創造を誤りとするものとして受け入れることができない、としています。神学書の中には、SDAは靈魂絶滅説、靈魂睡眠説などと言われますが、どれも私たちの知らない解釈です。ヘンリー・シーセンは「組織神学」の中に「**魂の眠り**を信じるSDAは誤り」と書いていますが、SDAは“死＝眠り”と考えていません。眠りとはその状態が無意識であること、いつまでも眠り続けるのではなく、やがて目がさめる時があるという意味で死をもっともよく例示することから、また聖書の表現から“死は眠りのようなもの”としていつか目覚める希望につなげているのです。

「魂は死後、永遠に生き続けて苦しみながら罪の刑罰を受ける」との思想は近年、福音派の教会でも取り消されています。カトリック教会の中でもこの大事な教理を説かない司祭たちがあり、指導者たちはこの傾向に危機感を覚えているようです。現代社会に伝道する際、このような刑罰の教えは民衆へのキリスト教伝道に大きな障害になることを心配しての配慮と思われます。アドベンチストはこうした教理に一貫して反対し、愛の神への恐ろしい誤解を与えると感じてきました。



第8課

8月25日

地上の聖所——その光と影

●暗唱聖句●

「また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである」
(出エジプト記 25 : 8、口語訳)

「わたしのための聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう」
(出エジプト記 25 : 8、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

8月18日

聖所のアイディアはどこから来たのでしょうか。儀式に救いがあるでしょうか。聖所の象徴、日毎や年毎の祭事、過越節、贖罪日などについて学びましょう。

来るべきものの影 旧約聖書にある聖所の儀式はキリストのあがないの働きを象徴し、またあがないの計画全体を目に見える形で啓示しています。これらの儀式は来るべきものの影であり、より大いなる、天の实在の写しでした。それらを理解することは救いを理解する助けになります。

神がモーセに天の聖所にならって地上に聖所を造るように命じられたとき、イスラエルのための礼拝センターを建てることだけを考えておられたわけではありません。聖所は初臨をもって始まるイエスの犠牲と働きについての実物教訓であり、また天にある、より大いなる聖所を指し示していました。天の聖所は天におけるイエスの働きの中心であり、あがないのドラマにおける最後の働きがそこでなされます。今週は、地上の聖所の役割と機能、罪の処理と救いについての実物教訓を学びます。

日曜日

天にあるものの写し

8月19日

NOTE

地上の聖所は人間の手で造られましたが、文字通り天の設計図に従って造られました。聖所はモーセやイスラエル人が周辺の異教徒をまねて造ったものではありません。それは神ご自身から直接与えられたものでした。

聖書によれば、神はモーセに聖所を造るにあたって従うべき「型」を啓示されました。「型」にあたるヘブライ語は“タブニス”で、この語は「見本」「計画」「様式」「建造物」「図式」「構造」「象徴」を意味します。

ヘブライ8:5を見ると、神が地上の聖所を天の聖所の「写し」「影」「模型」「類型」となるように計画されたことがわかります。「影」と訳されているギリシア語はある物体の投げかける影をさします。影はその物体の形を表します。地上の聖所は、かすかにではあっても、天の聖所を表しています。

地上の聖所は天の実体の影であり、イスラエルと世界に救いの真理を伝える手段として神によって制定されたものでした。それでも聖所の儀式そのものには何の救いもありませんでした。罪の問題は、鳩や山羊の血を祭壇の前に注いで解決するような単純なものではありませんでした。「雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができないからです」（ヘブ10:4）。

問1 神はなぜ複雑で細かい犠牲制度についての指示を与えたのでしょうか。

ヘブライ人の聖所の儀式を離れてキリストの働きを理解することは困難です。罪のあがないは「きずや汚れのない小羊のようなキリストの尊い血による」（Ⅰペト1:19）というペトロの言葉は、聖所の儀式という背景の中で理解しなかり意味を持ちません。「キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠^{ほふ}られた」（Ⅰコリ5:7）というパウロの言葉も、聖所の儀式を離れて理解できません。和解、あがない、救いの思想は、聖所の儀式とそこに教えられている教訓から学び取ることができます。

NOTE

旧約聖書に出てくる聖所はキリストのあがないの働きを予表していました。一般的に、「型」は旧約聖書中の人物、出来事、あるいは物のことであり、新約聖書中の何かを予表します。型はしばしばイエスの人格と働きを実体としていますが、父なる神、神の民、その他の実体に関係する場合もあります。

問1 聖所に関連する下記を聖書によって解説、理解しようとするれば、実体として次のそれぞれを教えていることがわかります。

香壇（黙示 8：3）＝聖なる者たちの祈り
 金の燭台（ヨハ 8：12、黙示 1：12、13、20）＝キリスト、教会
 犠牲の小羊（ヨハ 1：36、Ⅰコリ 5：7）＝キリスト
 備えのパン（ヨハ 6：32、33、41、48、51）＝キリスト
 あがないの座（出エ 25：22、レビ 16：2）＝神の臨在
 犠牲動物の血（レビ 17：11、5：9、Ⅰペト 1：19）＝キリストの血

聖所の儀式を学ぶとき、一つの点が明らかになります。動物の犠牲がいかに基本的で重要であっても、儀式の目指すところは動物の死によって目的を果たすわけではありません。罪人によってではなく、儀式を行う祭司によってなされねばならないことがほかにもありました。言い換えると、もし聖所の奉仕や儀式を救いの計画の型と理解するなら、その型は救いの計画が犠牲をもって終わるのでないことを教えています。ほとんどの場合、祭司の務めがそれに続きました。このことからわかるように、（地上の聖所の犠牲が象徴している）十字架上のキリストの死がいかに基本的で重要であっても、私たちのためのキリストの働きは十字架において終了したものではありません。

◆ 犠牲の動物が祭司のもとに連れて来られるとき、罪人の役割は本質的に終わりました。このことから、救いの計画における罪人の役割に関してどんな教訓を学ぶことができますか。

火曜日

日ごとの務め

8月21日

問1 聖所における日ごとの奉仕とは何ですか。礼拝者にどんな意味があったのでしょうか。出エ29：38～42、30：1、6～8

NOTE

「祭司が朝夕、香の時間に聖所にはいるとき、日ごとのいけにえは外の庭の祭壇にささげられる準備ができていた。これは、幕屋に集まった礼拝者たちが、非常な関心を示すときであった。彼らは、祭司の務めを通じて神の前に出るに先だって、まじめに心をさぐり、罪を告白しなければならなかった。彼らは、顔を聖所に向けて心を合わせ、黙祷をささげた。こうして、彼らの祈願が香の煙と共に立ちのぼった。そして、彼らは信仰によって贖罪^{しよくざい}の犠牲に予表された約束の救い主の功績にすぎた。朝夕のいけにえをささげるために定められた時間は、清い時とみなされた。やがて、ユダヤ民族全体は、その時間を所定の礼拝の時間として守るようになった」（『人類のあけぼの』上巻416ページ）。

聖所の儀式は二つの主要な部分に分けられていました。一つは日ごとの儀式であり、もう一つは年ごとの儀式でした。日ごとの儀式は聖所だけで行われましたが、年ごとの儀式は聖所と至聖所の両方で行われました。

問2 罪の処理のために何が不可欠でしたか。レビ17：11

日ごとの儀式によって、罪は聖所に移されました。まず、罪人が羊の上に自分の罪を告白することによって、その罪を象徴的に犠牲の動物に転嫁しました（レビ1：4、4：4、15、24、29、16：21）。次に、屠^{ころ}られた羊の血が垂れ幕の前に振りまかれ、祭壇に注がれることによって、罪は聖所に移されました。こうして、儀式の終わったときには、罪人は清められ、罪は聖所に移されました。血が用いられない場合には、祭司が犠牲の肉を食べることによって、同様に罪を除去しました（レビ10：16～20）。罪の処理には血が不可欠とされ、罪は象徴的にキリストが担われたのでした。

◆ 自分が旧約時代に生きていたイスラエル人だと想像してください。儀式の中で十字架の救いを学んだと思いますか。

NOTE

日ごとの儀式において人の罪は羊の血によってあがなわれ、罪は象徴的に聖所に移されました。年ごとの儀式である贖罪日には、神が民の宿営から罪を最終的に除去することを示していました。

問1 アザゼルの山羊の追放にどんな意味があったでしょう（ヘブライ語で身代わりの山羊はアザゼル）。レビ16:5～10、20～22

この山羊は、神が宇宙から罪を最終的に取り除かれることを示しています。山羊が荒れ野の果てに消え去るまで、民は罪の重荷から解放されたことにはなりません。イスラエル人はみな、贖罪日を祈り、断食、反省のうちに過ごさなければなりません。

問2 救いの計画の最終局面で、アザゼルと悪魔にどんな共通点があるでしょうか。黙示20:1～3、7～10

アザゼルの山羊は「贖いの儀式」に用いられますが（レビ16:10）、十字架上のキリストの犠牲を象徴するものではありません。その理由は次の通りです。（1）アザゼルの山羊からは血が流されていません。したがって、それは罪のための犠牲ではありませんでした（ヘブ9:22）。（2）アザゼルの山羊に移された罪はすでにほかの犠牲の血によって贖われていました（レビ4章）。（3）アザゼルの山羊に罪が移されたのは、聖所に記録されたすべての罪が主の山羊の血によって贖われた後のことでした（レビ16:16～19）。（4）主（ヤーウェ）のために1匹の山羊が選ばれ、アザゼルのためにもう1匹の山羊が選ばれていることから、アザゼルは主に敵対する存在であることが明らかで、それはサタンを表します。

贖罪日はキリストとサタンとの大争闘の縮図です。キリストは罪の治療薬であり、サタンは罪の原因です（聖書以外にアザゼルに言及している最古の資料は、紀元前2世紀に書かれた外典の第Ⅰエノク書です。この書は10回アザゼルに言及しています。その中でアザゼルはすべての罪を負い、荒れ野に追放されています。そして彼の悪天使たちは裁きを受けています）。

木曜日

年ごとの聖所の祭り

8月23日

ユダヤ民族は毎年7つの宗教的な祭りを行っており、特に過越、贖罪日、仮庵祭は3大祭りといわれ、罪と救いを教えるものでした。それらは暦に従って進行していきました。

NOTE

【過越】 出エジプト記12章とレビ記23：4、5にある過越（ヘブライ語でペサク）について読んでください。この祭りは救いの計画におけるどんな出来事を予示していましたか（Iコリ5：7、Iペト1：19、20）。

過越は年ごとの祭りの中で最初の行事でしたが、その意義を考慮すれば当然と思われます。キリストの犠牲なくして他の祭りは成り立ちません。過越は他のどの祭りにも先行する大事な行事でした。

【贖罪日】 これはユダヤ暦の7月10日に行われ、1年間にわたって犠牲の動物を捧げつつ告白し、蓄積されたすべての民の罪の総決算を意味しました（レビ16章、23：27～32）。これが聖所の清めの日と言われたことから、アドベンチストの先駆者たちは、預言的な再臨前審判の始まりと理解し（ダニ7：9、10、8：14、黙示11：18）、さらにダニエル書8：14にある2300の夕と朝に関する預言の研究を重ねて、この聖所の清めの時こそ、天における裁きの開始と信じて時の近いことをいっそう熱心に伝えたのでした。それが1844年10月22日でした。

【仮庵祭】 仮庵祭または仮庵のことは民数記29：12～34に記されています。この祭りは救いにおけるどんな出来事を予示していますか（黙示14：14～16、19：6～9）。

秋の収穫に続く仮庵祭は贖罪日に続いて行われるもので、1年の最後の祭りでした。仮庵祭は二つの理由で喜ばしい時でした。一つは収穫の祝いであり、二つ目は贖罪日にすべての罪を清算し、不和、争いを解決した喜びと感謝の祝いでもありました。

◆ これらの祭りは私たちの信仰生活に関してどんな霊的教訓を与えてくれますか。

NOTE

地上の聖所は天にある聖所のモデルでした。聖所や儀式に救いがあるわけではありませんが、それらはキリストの大祭司としての働きと十字架を予表するものでした。日ごとの奉仕、年ごとの奉仕、様々な祭りはすべてあがないの働きの各面を示すものでした。詩編記者とともに「神よ、あなたの道は聖所にあります」（詩編 77：13、英文）と賛美しましょう。

 もっと深く学びたい方へ

奉献物（揺祭）の儀式（レビ 23：10～14）と、それが予示する出来事（マタ 28章）について読んでください。『各時代の希望』下巻 257～281 ページ（カルバリー）を読んでください。

「キリストは眠った者の初穂として死人の中からよみがえられた。彼は揺祭のたばの本体であって、そのよみがえりは揺祭のたばが主の前にささげられる日に起った。千年以上のあいだ、この象徴的な儀式が行なわれてきた。収穫の畑から、熟した穀物の初穂が集められ、人々が過越節のためにエルサレムに行ったとき、その初穂のたばは主の前に感謝のささげ物としてふられた。これがささげられるまでは、作物にかまを入れ、それを集めてたばにしてはならなかった。神にささげられたたばは収穫を象徴していた。そのように、初穂なるキリストは、神の王国に集められる霊的大収穫の象徴であった。キリストのよみがえりはすべての死せる義人のよみがえりの型であり保証である。『わたしたちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう』（テサロニケ第 1・4：14）」（『各時代の希望』下巻 316 ページ）。

◆ 旧約の時代に生きたとして、これらの儀式、祝祭が毎年繰り返されることにどんな意義を見いだすでしょうか。

ミニガイド

【聖 所】 文字通り聖なる場所という意味で、語源は「区別する」「一般的な使用から離す」から来ており、“真の神を礼拝するために聖別された場所”を意味します。神はエジプトを出た荒野でモーセに「幕屋」を造るように指示され(出エ25:8)、のちにソロモンは同じ型に従い、モリヤの山に「神殿」を造って神に捧げました(歴代下3:1)。

外国勢力によって神殿が破壊されるや、民は第一急務としてまず神殿再建を目指しましたが(エズラ記参照)、神に関する事柄を優先し、ユダヤ人たちの信仰の核、民の結束と一致を“礼拝の場”に求めたのでした。荒野に造られた聖所を中心に12部族はそれぞれの天幕を配置しました。日々の生活でも最高の関心は常に聖所にありました。そこで働く祭司たちは尊敬の対象でした。宗教への反逆、軽視、等閑、侮蔑は最も大きな罪とみなされました。

【聖所の役割】 私たちは今、誰もが旧新約聖書を持っており、大変恵まれていると思います。罪の起源、救いの計画、キリストの働き、行いによらず信仰による義、人類の未来、聖霊の働き、生活の基準、生き方、価値観、その他多くの真理は聖書を読めば歴然としています。しかし旧約時代には聖書がありません。紀元前5～4世紀ごろになって初めて聖書が出回りましたが、それでも印刷されているわけではなく、読めるのは学者や宗教指導者だけで、民衆の書ではありませんでした。聖所とその奉仕、祝祭が人々に真理を印象づけて教える実物教訓となり、まさに聖書の役割を果たしました。

イスラエル周辺の国々は異教偶像礼拝者で、聖、義、愛を柱とする聖書の宗教はまったく異質の教え、慣習で成り立っていました。高い所を築き、青木の下に石や柱を立てて人身御供を行い、神殿男娼、女娼を置いて快樂を追い、まことに墮落的な宗教に堕していました(列王下17章参照)。神が細かい指示を与え、「聖なる所」を造って礼拝を行うように命じたことには深い配慮が感じられます。しかも形を造って神を拝まず、霊的な心の世界に民を導く真の宗教性を教えられたのでした。真の神への礼拝にあたって、ユダヤ人はどの地にあっても太陽崇拝にならぬように、東でなく、西向きになるように後の会堂も計画されたほどです。聖所も、後の神殿も「神は聖」との印象を民にも外国人にも印象づけました。

私たちは神や信仰など、「聖」についてどれほどの畏敬の気持ちを持っているでしょうか。それらが第一優先になっているのでしょうか。



第9課

9月1日

天の聖所

● 暗唱聖句 ●

「主はその聖なる宮にいまし、主のみくらは天にあり」(詩篇11:4、口語訳)

「主は聖なる宮にいます。主は天に御座を置かれる」(詩編11:4、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

8月25日

天の聖所は字義的に存在するのでしょうか。それとも霊的な概念でしょうか。キリストはそこで何をしておられるのでしょうか。なぜこの教理は批判されるのでしょうか。これから2週間にわたって天の聖所について勉強します。

「祭司はエルサレムの神殿の中庭に立ち、小羊を犠牲としてささげようとしています。いけにえを殺そうとナイフを振り上げたちょうどその時、大地が大きく揺れ動きました。恐れおののく祭司の手からナイフがすべり落ち、小羊は逃げて行きます。目には見えない手が、神殿の幕を上から下まで引き裂く大きな音が、地震の喧騒^{けんそう}をつらぬくように祭司の耳に聞こえてきます。

町を横切る黒い雲が、十字架を覆っています。イエスが『すべてが終わった』と叫ばれたとき、神の過越の小羊であるイエスは、全世界の罪のために死なれたのです。

型が本体と一つになったのです。永い間、神殿における奉仕が指し示してきたそのできごとが、実際に起ったのです。……

しかし、救済の歴史はこれで終わったわけではありません。十字架のまだその先があるのです。イエスの復活と昇天は、わたしたちの注意を天の聖所へと向けます。そこではもはや小羊ではない方が祭司として働いておられます。ただ一度の犠牲が捧げられました(ヘブル9:28)。そして今やこの贖罪^{しよくざい}の犠牲の恩恵を、すべての人が受けられるようにして下さったのです(『アドベンチストの信仰』548ページ)。

日曜日 天の聖所の真実性(出エ25:9、詩102:20、ヘブ9:23、24参照)

8月26日

NOTE

「この祭司たちは、天にあるものの写しであり影であるものに仕えており、そのことは、モーセが幕屋を建てようとしたときに、お告げを受けたとおりです。神は、『見よ、山で示された型どおりに、すべてのものを作れ』と言われたのです」(ヘブ8:5)。

聖書は地上の聖所を天の聖所の「影」と呼んでいます。影とその実体とでは、どちらが偉大で真実でしょうか。あなたの手とその手の影とではどちらが真実でしょうか。

地上の聖所とその儀式は現実のものでした。しかし、それらは天の聖所の影としての役割しか果たしませんでした。このことは天の聖所の真実性を教えているのではないのでしょうか。

問1 地上の聖所と天の聖所を比較してください。

地上の聖所

天の聖所

人間が造った(出エ25:8) ←→ 主が建てられた(ヘブ8:1、2)
 天にあるものの影(ヘブ8:5) ←→ 真の幕屋(ヘブ8:2)
 年ごとのいけにえ(ヘブ10:1) ←→ ただ一度イエスの体が捧げられ
 (ヘブ10:10)

ダニエルは幻の中で、現実の場所としての天の聖所を見ています。彼は、人の子が最後の審判において日の老いたる者の前に立つのを見ます(ダニ7章)。また、キリストが天の聖所でその働きを開始し、それを清める時まで、地上の権力は天の聖所におけるキリストの働きを隠そうとするのを見ます(ダニ8章)。「最も聖なる者」に油が注がれることを述べているダニエル書9章の70週の預言は、天の聖所におけるキリストの働きが開始されたことを示しています。

◆ 聖書は天の聖所の実在と現実性を語っています。それを霊的な概念で理解するのはいかがなものでしょうか。天の聖所の実在を信じることと天の聖所が象徴する働きとではどちらが重要と思いますか。

NOTE

「神よ、あなたの道は聖所にあります。わたしたちの神のように偉大な神はあるでしょうか」（詩 77：13、英語欽定訳）。

天の聖所に関する重要な疑問の一つはその存在理由です。地上の聖所は人間にあがないの計画を教えるためのものでした。では天の聖所は何のためにあるのでしょうか。それはなぜ必要なのでしょう。人間を救うために神は天に何らかの建造物を必要とされるのでしょうか。それともほかに何か目的があるのでしょうか。

問1 次の聖句は信仰の戦いが人間世界だけのことでなく、天も含まれていることを述べています。

創世 22：11、12

ヨブ 2：1

ダニ 7：10

エフェ 3：10

黙示 15：5、6

地上で展開しているとはいえ、罪、救い、悪の問題は天を巻き込んでいます。罪は地上で始まったのではなく、ルシファーと3分の1の天使の反逆によって天で始まりました（イザ 14：12～14）。全天は罪と反逆の問題にかかわっています（ロマ 8：22）。

もしそうだとすれば、天の聖所は地上の聖所と同様、傍観する宇宙に救いについて教えるためのものなののでしょうか。神は天に聖所を必要とされません。天に聖所があるのは神が反逆を公正に処理される方法を全宇宙が認めるためと考えられます。

◆ ダニエル書7章にある天の裁きの光景に目をとめてください。この裁きは誰もいないところでなされるのではなく、数えきれないほどの天の住民の前でなされるのです（10、11節）。このことは、傍観する宇宙が救いの計画に対して抱いている関心についてどんなことを教えていますか。神が全宇宙の前で罪を公正に処理されることが重要な意味を持つのはなぜですか（『各時代の大争闘』下巻127、128ページ参照）。

火曜日 キリストの執り成しの働き(イザ53:12)

8月28日

NOTE

聖書にはっきりと教えられているように、キリストの働きは十字架をもって終わったわけではありません。キリストは今、天の聖所で、私たちの大祭司として働いておられます(ヘブ8:1,2)。

「だれがわたしたちを罪に定めることができます。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、**わたしたちのために執り成してくださるのです**」(ロマ8:34)。「人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇天されたのである」(『各時代の大争闘』下巻222ページ)。

問1 「すべてが終った」(ヨハ19:30、口語訳、新共同訳は「成し遂げられた」と主が叫ばれたとき、何が完成し、何がまだ終わらなかったでしょうか。

イエスは私たちのいけにえであり、同時に私たちの大祭司です。地上の聖所においては、動物の犠牲が捧げられた後で、祭司がその血を取って罪人の「贖い」をしました(レビ4:31)。祭司は罪人が自分では決してできないことを罪人に代わって行いました。つまり、祭司は仲保者としての役割を果たしたのです。

地上の聖所はキリストの生涯、死、大祭司としての務めを予示していました。キリストの犠牲はただ一度だけ捧げられました(ヘブ7:27)、キリストは今も私たちの大祭司として「執り成して」おられます。罪人が罪を犯すたびに祭司を必要としたように、私たちもイエスを必要とします。イエスはその功績を私たちに適用してください。私たちが絶えず罪を犯すということは、絶えず仲保者を必要とするということです。この仲保者こそイエスです。彼は悔い改めた罪人のためにその血と義を捧げてくださいます(1ヨハ2:1)。次の聖句はこのことを言っているのです。「この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことがおできになります」(ヘブ7:25)。

NOTE

問1 天の聖所は黙示録が描く最終時代にどんな役割を演じますか。黙示 11：19、14：15、17、15：5～8、16：1

黙示録には、天の聖所が16回言及されており、神殿、聖所、幕屋という言葉が用いられています。ヨハネによれば、贖いのドラマの重要なシーンは天の聖所と結びついています。ヨハネの幻においては、聖所がプラス的な関係で描写されるときと、マイナス的な災いの関係で見られる場合があります。黙示録 21：3 では前者のような幸せな励ましとして描かれ、16：1 では聖所から災いがくだるという描写があります。

問2 黙示録にある次の聖句を読むとき、聖所についてどんな想像がわいてきますか。

1：12 _____

5：6 _____

7：14 _____

8：3、4 _____

11：19 _____

黙示録は天の聖所を贖いの指令所として描き、小羊イエスを常に聖所の背景の中で見えています。あがないのメッセージは天にある神の玉座から始まっています。聖なる者たちの安全は神と小羊の聖所における働きによります。同時に裁きは聖所から出ており、終わりの時の諸事件は聖所から指令されています。

◆ 「黙示録を研究すると、一つのことが明らかに理解されます。すなわち、神と神の民との間のつながりは、密接で、決定的なものであるということです」(『牧師へのあかし』114ページ)。黙示録に描かれている天の聖所についての教理は、天と地の間にこのような密接な関係があることを教えています。この関係について理解することはどんな励ましを与えてくれますか。

木曜日 天の聖所における神の方法(ヘブ7:24~8:2)

8月30日

NOTE

聖所は罪人のためのイエスの働きに焦点を当てています。聖所は墮落した人類に対する神の豊かな恵みをはっきりと啓示しています。聖所は私たちが神の助けによって絶えず罪の赦しにあずかる方法について、また罪に勝利する方法について教えています。アダムとエバはエデンにおいて神と親しく交わっていましたが、罪によってその交わりは断たれました。しかし、聖所は私たちに神が近くにおられること、神が憐れみ深いお方であること、神が私たちのためにご自分に近づく道を備えておられることを約束しています。サタンが聖所の真理を憎むのも不思議ではありません。サタンの攻撃目標が聖所にあることを黙示録8:11、12、13:6は述べています。

「すべての人は偉大な大祭司イエスの地位と働きを自分で知る必要があります。そうでなければ、この時代に必要とされる信仰を働かせることも、神が与えようと計画しておられる立場を占めることもできません」(『伝道』221、222 ページ)。

問1 エレン・ホワイトの文章をあなたはどう理解されますか。大祭司としてのキリストを知ることはなぜ大切だと思いますか。

ダニエル書8章で、小さな角の権力は聖所を攻撃しています。この権力は「日ごとの供え物」、つまり日ごとの務めを廃止し、聖所を倒そうとします(11、12節)。後世になってヨハネも悪の勢力による聖所への攻撃を見ます(黙示13:6)。^{ひまう}豹に似た獣は、竜から与えられた権力に従って、「口を開いて神を冒瀆^{ぼうとく}し、神の名と神の幕屋、天に住む者たちを冒瀆した」(黙示13:6)。

「神に対するサタンの戦いが神の聖所と神の玉座、すなわち神の主権に集中していることがわかります。……聖所の真理は罪の終局について、死と滅びからの最終的な救いについて、人間と国家に対する神の裁きについて、また神の永遠の王国樹立について説明しています。被造物全体はこの目標に向かって進んでいます。このことを理解するためには、聖所から出る聖書の真理を重要視しなければなりません」(エドワード・ヘッペンストール『我らの大祭司』18、19 ページ)。

NOTE

天の聖所においてキリストは私たちのためにご自身の血をもってとりなしをしておられます。罪を犯すとき、私たちにはまったき義を与えてくださる仲保者がいます。この重要な真理のゆえにサタンは聖所とその教えに激しい怒りをぶつけてくるのです。

 もっと深く学びたい方へ

神殿奉献式におけるソロモンの言葉、列王記上8:56～61を読んでください。神殿の儀式が天の聖所の影であることを考えると、これらの言葉が適切であるのはなぜですか。

『初代文集』409～413ページを読んでください。

「イエスが、カルバリーで、『すべてが終った』と叫んで、なくなられたときに、神殿の幕が、上から下まで真っ二つに裂けた。これは、地上の聖所の働きが永遠に終わったことを示し、神はもう地上の聖所において、祭司たちと会って彼らの犠牲をお受けにならないことを示した。その時にイエスの血が流されたのであって、彼は、天の聖所において、それをご自分でおささげになるのであった。地上の聖所の清めのために、祭司が、1年に1度至聖所にはいったように、イエスは、ダニエル書8章の2300日の終わり、すなわち、1844年に、天の至聖所にはいり、彼の仲保の働きによって恵みにあずかるすべての者のために最後の贖いをなし、こうして、聖所をお清めになるのであった」（『初代文集』413ページ）。

「ヘブライ人への手紙」は聖所とキリストの大祭司としての働きを多く記録しています。「ヨハネの黙示録」もまた天の聖所や神殿の雰囲気、小羊なるキリスト、大祭司イエスなどを多く記録しています。両書は切り離すことはできず、いずれも大事な聖書の真理を語り、教えているように見えます。この二つの書簡を読んで、信仰のための重大な発見をしましょう。

ミニガイド

【天の聖所】

1980年代、アドベンチストの学者デズモンド・フォードは「天に聖所という建築物は実在しないし、キリストが聖所から至聖所に入る、また座して書物を開きながらクリスチャンを調査しているというようなことはありえない」と見解を述べて物議をかもしました。今週は『アドベンチストの信仰』第23章に沿っての学びです。神のみ座、神の住みたまう家がどんな形態なのか、どんな材料でできているのか、大祭司がどのように働いておられるのかなどを、私たちが地上的な想像と思考、尺度で推量することはできないばかりか、あまり意味がありません。大事なのはもっと霊的な、贖罪のみ業です。これについては「ヘブライ人への手紙」に詳しく書かれており、S D Aの先駆者たちは「ダニエル書」、「黙示録」という預言書執筆者が啓示された天の幻において断片的に見せられた光景を調べ、主の執り成しを終末論的に捉えて、信仰の励ましとしたのでした。

【大祭司キリスト】

キリストの仲保の働きはアドベンチストだけが教える特有のものではありません。キリスト論に関するどの神学書も、キリストの祭司職を扱っていますが、改革派ルイス・ベルコフ「組織神学」は特に“ヘブライ人への手紙”から多く引用し、祭司の機能についての項に次のように述べています。

- (1) 祭司は人々の中からその代表として召された。
- (2) 祭司は神によって任命された。
- (3) 祭司は神との関係において人のために積極的に働いた。
- (4) 祭司の特別な職務は罪のための犠牲を捧げ、人々のために仲保の執り成しをすることであった。
- (5) 祭司は神のみ名によって民を祝福した。

同教授はさらに、このキリストの祭司職は旧約の祭司によって型として予表され、「預言的な性格を持つものとして福音を示すものであった。それらはイエスの身代わりの苦しみ、贖いの死を予告するために計画された」と説明しています。



神の裁きの時

●暗唱聖句●

「大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』」
(黙示録 14：7、口語訳)

「大声で言った、『神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい』」
(黙示録 14：7、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

9月1日

^{あがな}贖いの意味と完成、裁きの重要性とイエスの役割、私自身の裁きなど、多くの大事な問題が今週の研究に含まれています。

SDA教会の中でも再臨前審判ほど誤解されてきた教理はありません。ある若い女性が安息日学校のクラスで、裁きに対する誤った理解のために苦しんできた体験を話しました。

「天では今、裁きが行われていて、私の名前がいつあがるかはわからないと子供の時から教えられてきました。私の番が来て、もし完全に清められていないと私の名前は命の書から消し去られ、永遠に滅びるといのです。でもそれがいつなのかわかりません。だから完全な者となるように努力してきました。私の裁きが終わっていて自分の名がすでに消し去られているかもしれないのに！」。

裁きをこのように見ているとすれば、苦しむのは当然です。今週はキリスト中心、福音中心の立場から、裁きについて考えます。裁きは福音の一部であるばかりでなく、福音の核心でもあることを学びましょう。

日曜日

真の贖罪日(ロマ5:11)

9月2日

NOTE

1844年以降、私たちは大いなる贖罪の日に生きています。それは地上の聖所によって予表された裁きの時で、聖所は年ごとの儀式によって清められました(レビ16:19参照)。「贖罪」という言葉は基本的には罪人を神と和解させる行為を意味します。ですから「贖罪」は確実によきおとずれなのです。

問1 ^{あがな}贖いはいかにして得られるでしょうか。レビ17:11

カインが地の産物を献げ物としてささげて以来(創世4:3)、人は様々な方法で自分の罪をあがなおうとしてきました。古代の異教徒は生まれたばかりの赤ちゃんや娘を犠牲として祭壇に捧げ、あるいはむちや鎖で自分の体を打ちたたき、釘の床の上に横になって耐え、砕いたガラスの上、燃える火の中を歩きました。すべて罪をあがなうための行為でした。

しかしみ言葉によれば、あがなわれる道はただ一つ、イエス・キリストの血によってです(1ペト1:19)。

問2 贖いの日について記録しているレビ記16章に何度も出てくる語は何でしょうか。

レビ記16章は、贖いが血によってもたらされることを教えています。罪をあがなうのは律法ではなく、血です(ヘブ9:22)。重要なのは日ではなく、贖罪であり、神の御業です。ですから私たちは裁きを恐れながら生きる必要はありません。むしろ贖罪の血を心にとめるべきです。そのとき私たちは聖霊の導きにより、神のご意志に従って生きようになるのです。

◆ 贖罪日の儀式の大切な中心が血にあることを理解することは、裁きを恐れながら生きている人々にどんな喜びを与えてくれるでしょうか。

NOTE

善と悪の大争闘は、神は専制、独断的というサタンの攻撃から出ています(創世3:1～6)。サタンはまた私たちの告発者です(ダニ7:10、ゼカ3:1～5、黙示12:10)。このように大争闘は神の品性と神の子らの品性をめぐる戦いなのです。ですから裁きの目的は、神の品性と聖なる者たちの品性を全宇宙の前に明らかにすることにあります。

問1 ダニエル7:8～27にある大争闘と調査審判についての預言で、次のそれぞれはどのような役割を果たすでしょうか。

登場する存在 _____

小さな角 _____

「日の老いたる者」 _____

人の子 _____

裁きと大争闘の結末 _____

この裁きにおける神の公正、偉大さに注目してください(9、10節)。天使が出席し、巻物が開かれています。誰でも証拠を調べることができます。すべてのものが神の品性と聖なる者たちの品性を認めるためには、このような公明さ、正大さが必要です。

エレン・ホワイトによれば、地上の聖所の至聖所にある契約の箱の上に立つ一對の金のケルビム(出エ25:18～20)は、「贖罪の業に対する天の軍勢の深い関心」を表していました(『各時代の大争闘』下巻128ページ)。これらの金の天使たちが、十字架の象徴である燔祭の壇^{はんさい}ではなく、裁きの象徴である部屋に置かれていたのはなぜでしょうか。神に向けられたすべての疑問が全宇宙の前で明らかにされるのが、十字架ではなく、裁きにおいてであるからなのでしょう(『各時代の希望』下巻287ページ参照)。

◆ エフェソ3:10を読んでください。ここには今週の研究に関連し、また大争闘における私たちの役割に関してどんなことを教えていますか。

火曜日

裁きの重要性

9月4日

ダニエル書8章は、幻（1～14節）とその説明（15～27節）という二つの部分に分かれています。ダニエル書2章と7章も幻（夢）とその説明という同じ構成になっています。

NOTE

問1 ダニエル8：1～14を読んでください。

ダニエル書8章に出てくる重要な4つの要素は、雄羊（3、4節）、雄山羊（5～9節）、小さな角（9～12節）、聖所の清め（14節）です。これらの要素の大部分は同じ章の後半で説明されています。雄羊は[メディアとペルシアの王]（20節）で、雄山羊は[ギリシアの王]（21節）で、小さな角は23～25節に説明されている権力です。この部分は14節の“2300日”をもって終わります。

第3の権力は何を指すのでしょうか。それはギリシアの後に出現する者であり、迫害する権力であり、「最も大いなる君」に敵対し、最後に「人の手によらずに」、つまり超自然的な方法によって滅ぼされる者です（25節）。これに当てはまる唯一の権力はローマであり多神教ローマ帝国、また教皇制ローマです（ダニエルの預言では、多神教と教皇制ローマがしばしば一つの権力として見なされています）。その理由は、この権力がギリシアの後に出現し、終わりの時まで続くからです。

歴史的に見ると、メディアとペルシアは歴史の中で世界と旧約時代の神の民に対して重要な役割を果たしました。ギリシアもそうです。そして多神教ローマと教皇制ローマが過去において果たし、また将来において果たすであろう決定的な役割は特筆に値します。

◆ ダニエル書8章には、メディアとペルシア、ギリシア、ローマ、清められた聖所という4つの要素しか出てきません。初めの3つは世界の歴史において重要な役割を果たしました。幻はダニエル書8：14における聖所の清めという第4の要素をもって終わります。最後の、クライマックスとも言うべき聖所の清めはどんな意味を持つのでしょうか。聖所の清めがどれほど重要な意味を持つかを考えてください。

NOTE

私たちにとって大事なことは裁きの時期や場所ではなく、“すべての人が裁きに直面する”との聖書の厳粛な教えです。「神は、善をも悪をも／一切の業を、隠れたこともすべて／裁きの座に引き出されるであろう」（コヘ12：14）。

終わりの裁きの時には2種類の人々しかいません。一方は神の前で過去のすべての行為を裁かれる人々であり、もう一方は完全な義を持ったイエスに身代わりとして立っていただく人々です。

問1 裁きの日、私たちの唯一の希望はどこにあるでしょうか。

ロマ8：1 _____

ガラ2：16 _____

Ⅰヨハ2：1 _____

「イエスが、彼の恵みに浴する人々のために嘆願される一方において、サタンは、彼らを罪人として神の前に告訴する。大欺瞞者サタンは、彼らに疑惑を抱かせ、神に対する信頼を失わせ、神の愛から彼らを引き離し、神の律法を犯させようとしてきた。そして今度は、サタンは、彼らの生涯の記録を指摘し、品性の欠陥、贖い主のみ栄えを汚したところの、キリストに似ていない点、そして、彼が誘惑して彼らに犯させたすべての罪を指摘して、これらのことのゆえに彼らは自分の臣下であると主張するのである。

イエスは、彼らの罪の弁解はなさらないが、彼らの悔い改めと信仰を示して、彼らの許しを主張なさり、天父と天使たちの前で、ご自分の傷ついた両手をあげ、わたしは彼らの名を知っている、わたしは彼らを、わたしのたなごころに彫り刻んだ、と言われるのである」（『各時代の争闘』下巻216、217ページ）。

◆ ハリーは、これまで自分があまりまじめに生きてこなかったのも、とても裁きに耐えられないと思いながら教会に来ていました。裁きの日に彼の身代わりを必要とするのは、まさに彼が善良でないという理由からであることをどのように教えたらいいですか。

木曜日

罪から清められる(Ⅰヨハ1:7~9)

9月6日

「この日にあなたたちを清めるために贖いの儀式が行われ、あなたたちのすべての罪責が主の御前に清められるからである」(レビ16:30)。

NOTE

天の贖罪日の型であった地上の贖罪日は、イスラエルにとって非常に神聖で厳粛な時でした。今日のユダヤ教でもこの日を大いなる裁きの日としています。ユダヤ人がこの聖なる日にささげた祈りに次のようなものがあります。

「裁きにおいて、私たちを義としてください」。

「告発者を黙らせ、代わって弁護者に語らせてください」。

「弁護者の嘆願を受け入れて、私は赦されたと言ってください」。

「救われたあなたの民の不義をぬぐい去ってください」。

地上の贖罪日において、民は大祭司が彼らのために仕えている間、自分の心を探る必要がありました。自分の罪が血によってあがなわれたからといって、自分の魂を「悩まし」、罪を捨てるようにという命令が無効になるわけではありませんでした。むしろ、彼らは主の前ですべての罪から「清められる」必要がありました。

問1 イエスは私の身代わりとなりました。救いは私のための主の義にのみ見いだされます(ロマ5:8、9)。だからといって罪を犯してよいということになるのでしょうか。ロマ6:15~18

今日、キリストが天の聖所で仕えておられる間、地上にいる私たちは信仰によってキリストとともに、至聖所に入らなければなりません。イスラエル人が地上の贖罪日に信仰によって大祭司に従い、至聖所に入ったのと同じです。私たちは心を探り、真心から罪を告白し、神の助けによって神のかたちに造り変えられる必要があります。清めの過程がいかに長くても、裁きにおける私たちの唯一の希望が自分の善行ではなく、身代わりとしてのイエスにあることを覚えましょう。

◆ 罪から清められる、罪の処理ということを考えてみましょう。

NOTE

再臨前審判は厳粛ではありますが、悔い改めと信仰をもって主に頼り、憩い、従う人には何も恐れはありません。イエスが身代わりとして立ってくださいます。キリストの義のみが私の救いの確信です。今も、裁きの日も。

 もっと深く学びたい方へ

裁きの基準は何ですか（ヤコ 2：8～12、コヘ 12：13、14）。どうしたら神の律法に従った生活を送ることができますか（ミカ 6：8、マタ 7：12、25：32～46）。

調査審判についてさらに深く理解するために、『各時代の大争闘』下巻 18～24 章、『アドベンチストの信仰』12、23 章を読んでください。レビ記 16 章とダニエル書 8 章の関係についてさらに研究したい人は、ダニエル書・黙示録委員会シリーズ第 2 巻『ダニエル書論集』（英文）426～461、527～549 ページを読んでください。

「裁きにおいては、行いによる義を求める人間の主張は効力を持ちません。そこには人間の心の根本的な悪が示されているからです。『次のように書いてあるとおりです。『正しい者はいない。一人もない』』（ロマ 3：10）。神の前においては、人が自分の罪や罪深さを償う手段はない。……

キリストがここで約束しておられるのは、裁きを免れることではなく、有罪宣告を免れることです。では、罪深い人間はどのようにして神の前で擁護されるのでしょうか。……

キリストは信じる者に有罪宣告からの自由を約束されましたが、それは彼がイエス・キリストと救いの関係にあることが明らかになるからです。信じる者に有利な判決が下されるという確信は、イエス・キリストが悔い改めた罪人のために父なる神のもとに来られるという事実によります。イエスだけが私たちの最終的な勝利を仲介してくださいます。クリスチャンの命がキリストと共に神の内に隠されるときにのみ、彼は立つことができます」（ヘッペンストール『我らの大祭司』119、120 ページ）。

ミニガイド

【さばきの光景】

あるアドベンチストが教会に導かれた時を振り返って言いました。

「私は聖書研究をして世の終わりのお話を聞き、特に最後の裁きの光景を描いた絵を見て本当に怖かったのです。天使や多くの人々がいる中に私が立ち、天使がいろいろな本を開けて私の行動を記録した書を調べています。そして自分がわからないように気をつけてしたすべての隠れた秘密も天のスクリーンに映し出されて、恥ずかしい言葉や行いをみんなが見ています。そこに悪魔がいて、意地悪そうに私を指差し、『この悪人』と責めています。確かにそこにはイエス様が弁護をするお方として私の側に立っておられるのですが、私は“滅び”と宣告されそうに怖かった。

世の終わりについての聖書研究でも次のように言われて心の不安が増しました。『最後の日は近い。結婚も、子を産むこともかえって悩みを増すだろう。安息日を守る神の民への迫害は厳しく、最後に死刑を宣告される。最後の“悩みの時”にはキリストの執り成しもなく、自分の義でひとり立たなければならない。最後の迫害に耐えられない者は神がその前に死なせてくださるのだ!』。彼は今でも信仰のために警官に追われて逃げる夢に悩まされていると語りました。

【主の救い】

人間は恐怖で心が動くものです。宗教は安心、平安を与えるはずですが、滅び、ある宗教は恐怖感で信者獲得に成功しますが、事実、裁きを訴えるメッセージには迫力があり、心動かされます。もっと世の終わりの怖い話をした方が救霊数が増えるかもしれません。次の言葉を読んでみましょう。

「弟子たちがキリストに従うのは、罰を恐れるとか、永遠の報いを望むからではない。彼らは、ベツレヘムの馬ぶねからカルバリーの十字架にいたるまで、この地上における旅路を通じてあらわされた救い主の比類のない愛を見る。そのキリストのお姿が彼らをひきつけ、魂をやわらげ、征服するのである。イエスを仰ぎ見る者の心のうちに愛がめざめる。彼らはみ声を聞き、イエスに従う」(『各時代の希望』中巻 279 ページ)

恐怖心やご褒美が信仰への入り口になることはあるでしょう。しかしそれらで信仰を持続させるのは正しい姿とは思えません。



残りの民

●暗唱聖句●

「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った」
(黙示録 12:17、口語訳)

「竜は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った」
(黙示録 12:17、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

9月8日

1844年の大失望以降、今日までキリスト再臨の信仰を守り続けたセブンスデー・アドベンチスト教会はいつも自らを「残りの民」と理解してきました。「アドベンチスト信仰の概要」の第12章には、次のように書かれています。「背教がはびこる終りの時代には、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ち続ける残りの民が召し出される」(『アドベンチストの信仰』263ページ)。私たちは自らを“残りの民”と主張しています。

私たちは自分たちだけが真のクリスチャンであるとか、救われるためには私たちの教会に加わらなければならないと教えていませんが、それでも「残りの民」という呼び方を自分自身に当てはめています。ただし、人はただ「残りの民」であると主張するだけで「残りの民」になるわけではありません。アドベンチストの中にも、こうした名称を使うことを疑問視し、それが高慢、うぬぼれにつながると警告する人たちがいます。また、教会の中に世俗主義、妥協、標準の低下があるのを見て、自らを残りの民と見ることに疑問を感じている人たちがいます。さらに、私たちのうちに律法主義、教条主義、ラオディキアの生ぬるさがあることに心を痛め、「どうしたら真の残りの民になることができるであろうか」と自問する人たちがいます。今週の研究はこのような疑問に答えてくれます。

日曜日

聖書最初の「残りの民」

9月9日

NOTE

「地^{おもて}の面にいた生き物はすべて、人をはじめ、家畜、^は這うもの、空の鳥に至るまでぬぐい去られた。彼らは大地からぬぐい去られ、ノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残った」（創世7：23）。

残りの民という概念が聖書に初めて出てくるのは、ノアに関連してです。創世記7：23の「残った」という動詞のヘブライ語語根は、旧約聖書のほかの箇所では名詞「残りの者たち」と訳されています（ゼファ1：4、エレ42：2、イザ17：3、ネヘ1：3、エズ3：8、9：8、歴代下30：6参照）。創世記に出てくる「残りの者たち」とは洪水後、生き残った人たちをさしています。

問1 ノアたちを他の人たちと区別したのは何でしたか。

ノアとその家族はほかの人々とは異なり、いわば「現代の真理」（当時は洪水について警告すること）を理解し、信じました。彼らはこの真理を信じただけでなく、それに従って行動しました。つまり、彼らはこのメッセージを信じたばかりでなく、まず箱舟を造ることによって、次にそれに乗り込むことによって、その信仰を実践しました。彼らの信仰はその行いによって表されました（ヤコ2：20参照）。

しかし、たとえ残りの民であっても、彼らの行いは完全ではありませんでした。創世記7：1で「正しい人」（口語訳）と呼ばれているノアも、創世記9：21、22では酔っ払って、天幕の中で「裸」のまま寝込んでいます。エレン・ホワイトも、父に対するハムの行動が「彼の品性が不まじめで、汚れたものであることを示していた」と記しています（『人類のあけぼの』上巻112ページ）。彼らは「現代の真理」を信じ、実践した残りの民でしたが、完全ではありませんでした。

◆ ノアの物語を読んで、“残りのもの”についての理解を助けるような点があったら書いてみましょう。

NOTE

「このわたしが、群れの残った羊を、追いやったあらゆる国々から集め、もとの牧場に帰らせる。群れは子を産み、数を増やす」(エレ23:3)。

「その日が来れば、主は再び御手を下して／御自分の民の残りの者を買ひ戻される」(イザ11:11)。

古代イスラエルは、神についての知識と真理（福音、律法、安息日、聖所、死の状態、健康など）を伝えるために、神によって選ばれた民でした。しかし彼らは周囲の国々と妥協したため70年間も捕囚となりました。それでも主は彼らを見捨てず、預言者を通して繰り返し彼らを自国に連れ戻し、改めて主を愛し、主に仕える機会を与えると約束されました（ゼカ8:8参照）。主は「残りの民」を回復すると約束されたのでした。

問1 神は残りの民を確かに連れ戻されましたが、彼らは完全に聖なる民とは言えませんでした。どんな問題を持っていましたか。

ハガ1:9 _____

ネヘ5:1～10 _____

ネヘ13:15～19 _____

問題を抱えていた彼らを神は残りの民と呼びになりました（エズ9:15参照）。たとえ欠点があろうとも、彼らは周囲の異教の民よりも多くの光と真理を与えられていたからです。安息日を完全に守っていなかった彼らはなお安息日の真理を持っていました（ネヘ13:15～19）。ノアの場合と同様、ここでも残りの民はその状態によってではなく、彼らにゆだねられた真理によって区別されています。

◆ クララは4年前にSDAになりました。彼女は教会を愛していますが、教会員と教会指導者のうちに見られるある種の出来事のゆえにひどく失望しています。残りの民につながっている意味があるのでしょうか。

火曜日 恵みによる残りの民(Ⅰペト2:9、ガラ3:29)

9月11日

NOTE

イスラエルの民が失敗した後、ユダヤ人の忠実な残りの民によって新約聖書の教会が発足しました(ロマ11:5参照)。この新約の教会もイスラエルと同じ機能を持ち、同じ約束を信じ、キリストによって啓発された同じ真理を伝え、同じ目的を持っていました。新約聖書の主題の一つは、ユダヤ人と異邦人からなる忠実な残りの民が闇の中から出て、キリストの光の中を歩むということです。初期のクリスチャンは自分たちを排他的な残りの民とは見なしていませんでした。むしろ彼らは自らをイスラエルに限定されない、全世界に散らされた開放的、普遍的な残りの民と見なしました。

問1 この新しい残りの民の間にも次のような問題がありました。

使徒6:1 _____

使徒15:1、2 _____

Ⅰコリ5:1 _____

Ⅱペト2:19～22 _____

問題は次第に悪化し、ついには、パウロが言うような大いなる「反逆」(Ⅱテサ2:3)が起こり、キリスト教会自身が「反キリストの教会」となるに至ります。神の忠実な者たちは何世紀にもわたって地下に逃れなければなりませんでした(黙示12:6参照)。その結果、神はマルチン・ルターのような人々を立て、宗教改革によって、暗黒時代に失われていた重要な真理を回復されます。しかし、宗教改革もやがてその勢いを失い、多くの教会は重要な真理を完全に回復する前にふたたび神学的な暗黒の中に逆戻りしていきます。合理主義、進化論、予定説、律法無用論といった様々な誤った考え方がキリスト教の中に入り込もうとしていました。そこで改めて神はバビロンにいた残りの民を導かれたように、真理を回復し、それを宣べ伝える一つの民を導き出そうとされます。

◆ 初代教会があれほど早く罪に陥ったのはなぜですか。初代教会と現代の教会との間にも、どんな似通った問題がありますか。

NOTE

黙示録12章はキリストとサタンの大争闘の歴史を描写しています。最初の6節には、サタンと天使の墮落(4節)から始まり、キリストの誕生(1、2、5節)、幼子イエスを殺害しようとするサタンの試み(4節)、迫害を逃れる教会(女、6節)までが描かれています。

問1 黙示録12：7～17を読み、次の諸点を学んでください。

＊サタンの反逆

＊サタンと悪天使の追放

＊教会を滅ぼそうとするサタンの試み

＊教会、サタンを逃れる

7～17節は基本的には1～6節と同じ内容を扱っていますが、17節は一步踏み込んだ内容になっています。6節にある1260日の期間を越えているからです(14節では、「1年、その後2年、またその後半年」)。17節は「その子孫の残りの者たち」、つまりサタンの怒りに遭う人たちについて描写しています。「竜は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った」(17節)。

この残りの者たちがだれであるかを理解する上で、重要な鍵は彼らが現れる時期です。この章全体を見ると、残りの者たちが現れるのは、この章にあるほかの事件が起こった後のことです。したがって、残りの者たちが現れるのは、この章に2回述べられている時期の後です。「この幻によれば、1260日または3年半の後に、竜は女の子孫を激しく攻撃する」(ウィリアム・ジョンソン『黙示録研究会議2』18ページ)。

◆ できる限りの資料を用いて、黙示録12章に描かれているこれらの期間が指している年代を調べてください。これらの期間を理解することは残りの者たちを理解する助けになります。

木曜日

その子孫の残りの者たち

9月13日

黙示録12章によれば、この女の子孫の残りの者たちが出現するのは預言的な1260年の後のことです（SDA教会は1260年の預言を538～1798年としています。『SDA聖書注解』7巻809ページ参照）。この残りの者たちは1798年後のある時点で出現するはずです。

NOTE

問1 黙示録12：17には“子孫の残りの者たち”につき、他にどのような特徴を挙げていますか。

残りの民の第一の特徴は「神の掟を守る」ことです。どの掟のことでしょうか。――黙示14：12、Iヨハ2：4、ロマ3：31、エフェ6：2、ヨハ14：15、ヤコ2：10、11、黙示22：14。

もう一つの特徴は「イエスの証しを守りとおしている」ことです。黙示録19：10には、「イエスの証しは預言の霊」とあります。

問2 アドベンチストは「イエスの証し」を預言の霊と理解し、エレン・ホワイトの働きに関連させていますが、それだけに限定すべきでしょうか。あなたはどのように思いますか。

アドベンチスト教会は自らを黙示録12：17に描かれた残りの民と考えています。SDAの特質は（1）1260年という期間の後に出現している。（2）すべての掟を尊重する。（3）「預言の霊」などです。

残りの民であることは特権であり、責任も伴います（ルカ12：48参照）。残りの民であることは救いの保証ではありません。残りの民の一員であるということは大いなる光、真理、「現代の真理」を与えられた団体の一員であることを意味するに過ぎません。個人的にこの光と真理にどのように応答するかは大切なことです。

◆ どうしたらアドベンチストでない人々に、尊大あるいは排他的な印象を与えることなく、残りの民についての私たちの考えを説明することができますか。

NOTE

いかに欠点があろうが、神はいつの時代にも残りの民を持っていました。ノアは個人的な過ちを犯したにもかかわらず、「現代の真理」を持ち、真理に従って行動した模範です。今日も神は「現代の真理」を持つ残りの民をお持ちです。不幸にして彼らは必ずしもその真理にいつも生きているわけではないのですが。

 もっと深く学びたい方へ

今週は残りの民について学びました。しかしながら聖書の中で残りの民という言葉はいろいろな意味に用いられています。次の聖句の中でそれがどのように用いられているか見てください——ヨシュ 12:4、列王上 12:23、14:10、列王下 19:4、イザ 1:9、14:22、エレ 6:9、31:7、エゼ 6:8、アモ 5:15、ゼファ 3:13、ロマ 9:27。

「神の戒めに人間の戒律を代用することはやまなかった。クリスチャンの間にさえ、昔の人々の言い伝えというだけでほかに何の根拠もない制度や慣習がみられる。このような制度は、ただ人間の権威にささえられて、天から指示された制度と入れ代ったのである。人々は自分たちの言い伝えを固守し、自分たちの風習を尊重し、彼らに誤りを示そうとする者に対して憎しみをいだく。今日、神の戒めとイエスを信ずる信仰とに注意を喚起するようにわれわれが命じられるときに、キリストの時代にあらわされたのと同じ敵意がみられる。神の残りの民について、こう書かれている、『龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った』(黙示録 12:17)」(『各時代の希望』中巻 154、155 ページ)。

ディスカッション

残りの民に属していることは他の人よりよい、清いということになるでしょうか。

ミニガイド

【アドベンチストの進むべき道】

第2次大戦後、セブンスデー・アドベンチスト教会は世界宣教において急速に伸張しました。ところが1960～70年代になって、米ソ両極による緊張緩和、ヴァチカン会議が示した対話という社会情勢の変化に伴って様々の局面を迎えました。こうしてわが教会は歴史的にどの教派も直面した内部問題に遭遇します。伝統的な教会の教え、組織と伝道姿勢の再確認という課題です。アンドルーズ大学歴史学のゲリー・ランド教授は『米国におけるアドベンティズム』を著し、その中で次のように分析しています。

「1980年代に入って教会は二者択一というジレンマに迫られた。SDAとしてこれまでのようなセクト的伝統を守るか、あるいは社会と他教派との協調という選択である。前者をとれば社会からの孤立を意味し、後者であればアイデンティティ（独自の特徴）の喪失を意味するかもしれない」。

近年アドベンチスト教会の識者の間で、キリスト論、信仰義認、聖所問題、預言の霊などの神学論争が起こり、社会的傾向を反映してアドベンチストの生活標準の軟化、生命倫理、結婚と離婚、中絶など、多様な意見や対応が教会内に複雑に広がっています。

教会が生き残るために、次代の青年たちを取り込み、1億を越える日本人大衆にキリストの救いを伝えるべき宣教という大使命のために、私たちは今、大事な時期に生きています。神の導きを求め、指導者のために祈り、信仰の友とみ旨を探り、それぞれが冷静な判断をし、一致して再臨使命を正しく伝達しようではありませんか。

アメリカの著名な神学者ラインホルト・ニーバーの「祈り」を思い出します。これまで大事に守ってきたいろいろなことを「変える勇氣、変えない勇氣、そしてそれらを識別する知恵」を神に求めたいと思います。カルト的集団かのように誤解されず、世俗主義に堕さず、SDA教会が守ってきた教えの原点を新しい皮袋に入れて生かし、それでなお新しい風を取り入れて21世紀をめざす「古くて新しいアドベンチスト教会」こそ現代に必要とされているのではないのでしょうか。「過去における主の教えと導きを忘れない限り、私たちは将来を恐れる必要はない」とのエレン・ホワイトの確信に満ちた言葉を覚えて前進しましょう。



終わりの時

● 暗唱聖句 ●

「ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」
(ダニエル 12 : 4、口語訳)

「ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこれらのことを秘め、この書を封じておきなさい。多くの者が動揺するであろう。そして、知識は増す」
(ダニエル 12 : 4、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

9月15日

極端な終末論や預言解釈はどうして起こり、多くの人がその危険に誘われるのでしょうか。

旅行計画 1988年にキリスト再臨があると信じた米国のある牧師が、再臨、そして昇天にあずかるために聖地旅行を計画しました。旅行費用は「ロサンゼルスからだとも1975ドル、ニューヨークからだとも1805ドル(必要な場合には、帰りの運賃も含む)」という「格安」なものでした。旅行パンフレットにはこう書かれていました。「私たちが宿泊するインターコンチネンタルホテルはオリブ山の頂上にあります。そこからはエルサレムの東門と神殿の丘が一望できます。もし予想通り、今年が主の再臨の年であるなら、私たちも主が昇天されたその場所から昇天することができます」。旅行に参加した人たちが帰りの航空券も使うことになったのは言うまでもありません。

様々なしるしがキリスト再臨と世の終わりを予示していることは事実です。しかし注意すべきことは、狂気じみた憶測、日付の設定、感情論などが教会に入り込んでいることです。その日がいつであってもよいように毎日を大切に作る安定感のある信仰が必要です。

日曜日

確かな預言の言葉

9月16日

NOTE

「わたしたちは、聖なる山にイエスといったとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意しててください」（Ⅱペト1：18、19）。

キリスト再臨を指し示す預言的な前兆はあちこちに見られます。しかし終末の出来事をセンセーショナルに取り上げ、語ることは危険です。異常な事件やニュースを大々的に取り上げ、自分に都合のよいように解釈する人たちがいます。彼らは戦争、暗殺事件、クーデター、社会の流れや動きなどに終末的な意味を加え、誤った興奮を引き起こそうとします。その結果、狂信的な人々によって踊らされた人々は次第に福音から離れます。

極端な預言解釈をする人たちに見られるもう一つの態度は、自分たちの主張が受け入れられないと、教会に苦い思い、恨みを抱き、敵意を持つようになることです。彼らの預言解釈は聖書に基づかない独断的な推測によるものです。

「新しいものを創作しようとする欲望は奇妙な教理を生み出し、主から与えられた真理に対する初めの確信を固く保っていたなら善を推進する力となっていたであろう人々の影響力を大きく傷つける」（『セレクトッド・メッセージズ』第2巻38ページ）。

これと反対の誤りはキリスト再臨の切迫を预示しているしるしを無視することです。終わりの時に関する警告を嘲笑、否定する人たちに影響されてはなりません。このような人たちはヨハネ9章にあるファリサイ派の人々に似ています。彼らはキリストを信じる十分な理由があったにもかかわらず、信じることを拒みました。

◆ デヴィッドは、キリスト再臨前の諸事件についての自給伝道グループの文書を読みました。予告されたことが一つも起こらないのを見て彼は失望し、再臨信仰を放棄してしまいました。どのようにデヴィッドを助けたらよいのでしょうか。

NOTE

「事の起こる前に、今、言っておく。事が起こったとき、『わたしはある』ということ、あなたがたが信じるようになるためである」(ヨハ13:19)。

デンマークの量子物理学者ニールズ・ボーアは、「正確な予言をすることは非常に難しい。……将来に関しては特にそうである」と言いました。これはアドベンチストの学ぶべき教訓です。例えばこの聖書研究ガイドを読んでいる人はみな、巨大な小惑星の衝突による滅びを免れた人たちです。というのは、ある自給伝道グループが、1994年に巨大な小惑星が地球に衝突し、数十億の人間が死ぬであろうと予言していたからです(事実その年に、いくつかの小惑星が木星に衝突しています。“予言”は当たったともいえますが、衝突した惑星が違っていました)。終わりの時の諸事件に関して推測をめぐらす人たちに共通点があります。彼らの予言はいつも外れるということです。

問1 ヨハネ13:19を読んでください。イエスは預言理解についての簡単な原則を語りました。預言は単に未来を知らせるものですか。その成就で信仰を強めるためですか。あるいはその両方でしょうか。

預言は多くの点で、実現した後の方が意味深いものとなります。後で振り返り、それらの預言がどのようにして実現したかを理解することができるからです。それは信仰を高め、強めてくれます。人は手相や茶葉によってさえ、将来を予言することができます。しかし、その予言を正しく理解するかどうかは全く別の問題です。

ダニエル書2章で信仰を強めてくれるものはまだ実現していないキリストの永遠の王国についての約束ではなく、すでに実現した出来事、ダニエルの預言の数百年後に起こった諸帝国(バビロン、メド・ペルシア、ギリシア、ローマ)の興亡とその順序です。

黙示録14章の三天使のメッセージは獣の印などの預言を扱っています。私たちはその象徴の意味を理解する必要があります。しかし、啓示されている箇所を超えて推測することは危険です。

火曜日

しるし、しるし、しるし！

9月18日

問1 キリスト再臨の近いことを示すしるしは何ですか。

NOTE

マタ 24 : 12 _____

ルカ 21 : 9 ~ 11 _____

ルカ 21 : 25、26 _____

II テモ 3 : 1 ~ 5 _____

ヤコ 5 : 1 ~ 8 _____

これらの、またほかの多くの聖句は、私たちが世の終わりに生きていることを示しています。しかしながら、神を愛し、キリストの再臨を待ち望んでいる人たちは、時のしるしを過大視し、それらをキリスト再臨の日を定める指標として用いないように留意すべきです。百年前に生きた人たちも同じ聖句を見て、それを自分たちの時代に当てはめていたのです。「主の来臨は、私たちが初め信じたときよりも近づいている。大争闘は終結に近づいている。海上や陸上の災害に関する知らせは、万物の終わりがすぐそこまで来ていることをあかししている。戦争と戦争のうわさがそのことを告げている。目前に迫っている大事件を予期して、心臓の高鳴りを覚えないクリスチャンがいるだろうか」（『伝道』219ページ）。

再臨を信じるクリスチャンは、キリストがこの世を終わらせ、全く新しい世界をスタートされることを知っています。私たちは一方でキリスト再臨の望みを抱き、他方で日常の勤めを忠実に果たすように求められています。両者のバランスを保つことは必ずしも容易なことではありません。

◆ ある教会の若い夫婦が、キリスト再臨間近と確信し、財産を売り払い、学校に行っている子どもたちをやめさせ、家族で山の方に転居しました。彼らにとって、他のアドベンチストたちはみな「ラオディキア」「生ぬるい人たち」「あざける人たち」に見えました。再臨が近いと信じる私たちも、このような誤った熱心さを避けるためにはどうしたらよいのでしょうか。

NOTE

「人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである」(マタ24:37)。

終わりの時についての新約聖書の描写はドラマティックで恐怖に満ちています。人々に悪性のはれ物ができ、川と海が血のようになり、人間は「激しい熱」で焼かれます(黙示16:8,9)。諸国民は怒り(黙示11:18)、不安に陥り(ルカ21:25)、世界は信仰をめぐる分裂します(黙示13:9~12)。天体に異変が起こり、地震、暴風雨、災害が激しくなります(ルカ21:26、黙示6:12~15、16:18~21)。偽りの教えによって混乱が生じ(マル13:19~23、Ⅱテサ2:8~12)、悪霊の働きが活発になります(Ⅰテモ4:1)。社会不安が増し、信仰が軽視されます(Ⅱテモ3:1~5)。神の民は迫害に苦しみます(黙示13:15~17)。

問1 終末のしるしは確かに大事ですが、マタイ24:37~42、ルカ17:28を注意深く読んでください。それらは何を意味しますか。

洪水直前と同じように(マタ24:37)、人々は食べ、飲み、めとり、嫁いでいることでしょう。ロトの時代と同じように、人々は買い、売り、植え、建てていることでしょう。ほとんどの人は終わりの前兆に気づいていないようです。パウロはテサロニケ教会に、再臨に伴う恐ろしい滅びが襲い(Ⅱテサ1:5~10参照)、大災害のさなかにありながら人々は「無事だ、安全だ」(Ⅰテサ5:3)と言う、と書きました。

このように一般の人々にとって、終わりの時は平和と繁栄の時のように見えます。終わりの時の悩み、災害、混乱、迫害はリーダー・スクリーンに映っているのですが、平和な時にはあまり目立ちません。キリストにつながり、御言葉の教えを理解している人たちだけが、時を正しく理解することができます。

◆ 終わりの時は一見「ふつう」に見えますが、神の民は時を正しく認識する必要があります(Ⅰテサ5:4~7)。どうしたら神の民は現状に満足することなく、今の時代を生きることができますか。

木曜日

時代の傾向

9月20日

NOTE

私たちが終わりのしるしと受け取っている多くの世界の出来事は、実際には「時代のしるし」にすぎません。それらはキリスト再臨の時期を示すものではなく、むしろキリストの預言された再臨が確かであることを確証するものです。

弟子たちがイエスに再臨と世の終わりの「徴^{しるし}」について尋ねたとき(マタ24:3)、イエスは次のように答えられました。「戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞くだろうが、慌^{あわ}てないように気をつけなさい。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない」(6節)。ユダヤ人は戦争と戦争のうわさを世の終わりのしるしと考えていましたが、マタイ24章を見れば、それらが終わりを告げるものではなく、終わりに先立つ時代の状態を示しているにすぎません。

「民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉^{ききん}や地震が起こる。しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりである」(マタ24:7,8)。戦争、飢饉、地震は終わりのしるしではなく、むしろ始まりのしるしです。弟子たちが終わりのしるしを求めたのに対して、イエスは時代のしるしをお与えになりました。これらのしるしは終わりの時を推測するためのものではなく、終わりの時に備えていつも目を覚ましているようにというイエスの言葉を思い起こさせるためのものです(42節)。

問1 1960年、前代未聞の驚くべきことが起こりました。ローマ・カトリック教徒のジョン・F・ケネディがアメリカ合衆国大統領に選ばれたのでした。多くのアドベンチストにとってカトリック大統領の出現は終末の近いしるしでした。あれから40年余りが過ぎましたが、私たちはまだ地上にいます。ある特殊な出来事を読みとりすぎる危険性についてどう考えますか。

聖書もエレン・ホワイトも、終わりの時に関しては詳しく述べていません。ですから靈感によって啓示された事柄を越えて推測する場合には、十分に注意する必要があります。啓示された事柄を越えて推測することは失望と失敗を招くだけです。

NOTE

聖書は終末に関して最高級の注目を示しています。再臨の日までアドベンチストは日々を生きつつ、終わりの日を期待しつつ、という正しいバランスを必要とします。バランスとは社会の出来事のすべてに預言的な意味を見つけることにではなく、流れの傾向、時代のしるしをしっかりと見据えることに見いだすことができるのです。

 もっと深く学びたい方へ

マタイ 24：15、黙示録 1：3、ダニエル書 12：11、黙示録 19：7～9、『各時代の大争闘』下巻 23 章（聖所とは何か）、24 章（天の聖所における大事件）を読んでください。

「ダニエル書と黙示録をより良く理解するとき、信者は全く異なった宗教的体験をするようになる。彼らは天国の開かれた門をかいま見るので、心の清い者たちに与えられる祝福にあずかるために必要な品性がその心と思い印象づけられる。主は黙示録に啓示された事柄を謙虚に、素直に理解しようとするすべての人々を祝福してくださる。……黙示録を研究することによって、一つのことがはっきりと理解される。それは、神と神の民とのつながりが親密で、決定的なものであるということである」（『牧師へのあかし』114 ページ）。

ディスカッション

(1) エレン・ホワイトはしばしばその著書の中で、終わりが近いと述べています。彼女が書いて 100 年を過ぎた今日に生きる私たちはこれらの文章をどのように理解したらいいのでしょうか。黙示録の著者も 1900 年程前に終わりについて書きました。

(2) 個々の出来事を時のしるしとして読みとりすぎることへの注意を学びましたが、次のような事件をどう考えますか。共産主義の崩壊、世界超大国化したアメリカ、心霊主義の展開、カトリックとプロテスタントの協調と一致への動き。

ミニガイド

【聖書に見る終末の教え】

キリストは「悔い改めよ。天の国は近づいた」(マタ4:17)と言って宣教を開始しました。

ペトロは使徒言行録2:17でヨエル書を引用し、ペンテコステの出来事を預言の成就としています。

パウロはIテサロニケ4:17でキリスト再臨について書き(紀元52年)、そのとき、「死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会う」と表現して、彼の生きている間に再臨があるかのようになっています。

この他にも聖書には「終わりの時が近づいている」という言葉が多くあります(ロマ13:11、12、Iペト4:7)。

聖書はなぜこのような緊迫感をもって終わりの日の近いことを訴えているのでしょうか。

【ウィリアム・ミラーと“今日という終わりの日”】

ウィリアム・ミラーは預言の研究をしてキリスト再臨の日を最初は1843年春と考えました。その後、1844年春、そして1844年10月22日と指定しました。特にこの時は北米全土にキリスト再臨のメッセージが広がり、多くの人が信仰をもって主の来臨を期待しましたが、主はおいでにならず、大失望を味わいました。

ミラー派の多くは再臨信仰を捨てて彼を離れてゆきましたが、同じ年の11月10日に彼は新しい日を設定したと書いています。

「兄弟たちよ、信仰を固く保ちましょう。だれにもあなたの冠を奪われてはなりません。私は別の時を心にとめています。そして神がもっと光をくださるまで、この見解でいるつもりです。それは、今日という日です。**今日、今日**、彼が来られて、私の魂が切望するそのお方にお会いする日まで**今日**なのです」(ジョージ・ナイト著『再臨を待ち望みつつ』25ページ)。

聖書から再臨の日を決めることはできませんし、そのような独断と推量を教えていません。しかし信仰者にとって大事なことは毎日の信仰、生き方、生活、姿勢です。今日、私と神様との関係は大丈夫でしょうか。今日、主に命を召されても、救いを確実に信じ、平和でいられるでしょうか。信仰義認の教理はまさにこの問いに解答を与えてくれます。



第13課

9月29日

見よ、彼は来られる

●暗唱聖句●

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」
(黙示録 22：12、口語訳)

「見よ、わたしはすぐに来る。わたしは、報いを携えて来て、それぞれの行いに応じて報いる」
(黙示録 22：12、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

9月22日

キリストが必ず再臨するというどんな確信を私たちは持っているでしょうか。この出来事を信じるに足る合理性、論理を持っていますか。キリストはすでに再臨されたという誤まった主張にどのように対応しますか。主はどのように再臨され、そのとき何が起こりますか。

約束の中の約束 キリストが天の雲に包まれて再び来られる時、地上の、人間によって造られた、一時的で無意味なものはすべて、大いなる力と威厳のうちに現される神の力によって一掃されます。キリストの再臨において、人間のすべての論理、理性、思想が無視され、偏狭、偏見、限界に満ちた世界のすべての知恵が暴露されます。そして、初めに光と命を出現させたのと同じ神の御声が、再び響き渡ります。すると、御言葉の力によってあがなわれた死者が復活し、墮落以後だれも経験したことのない輝かしい肉体をまとして現れます。

これが神の究極的な約束、キリストの再臨についての約束です。この約束がなければ、ほかのすべての約束は無意味でありましょう。

日曜日

再臨の保証(ヨハ14：1～4)

9月23日

NOTE

ひとりの子どもが誘拐されたとします。失望落胆し、困り果てた両親は300万ドルの身代金を支払うことにしました。両親はお金を要求された場所に置きましたが、「子どもはいらない。どうでもいい」と言ったとしたら、なんとという驚きでしょう！

キリストは私たちをあがなうためにご自分の命を身代金として支払われました。「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように」(マタ20：28、1テモ2：6参照)。私たちのためにこれほどの代価を支払っておきながら、もしキリストが私たちを受け取るために来られないとしたらどうでしょう。これほど無意味なことはありません！ キリストの初臨の事実は再臨についての保証です。キリストの初臨の目的は再臨にあったとさえ言えます。

問1 もしキリスト再臨の約束がなければ、あの初臨にどんな意味があるのでしょうか。キリスト再臨がなく、私たちをみ国にお連れくださらないなら、主は十字架で私たちのために何をされたのでしょうか。

キリストの初臨は私たちに生き方の模範を示すためであったと言う人たちがいるかもしれません。その通りです。キリストの初臨は、隣人を愛し、隣人に仕える方法を教えるためであったと言う人たちがいるかもしれません。その通りです。しかし、それだけではいけません。いいえ、そうではありません。

マザー・テレサも、マーチン・ルーサー・キングも、ガンディーも、みなすばらしい模範を残しました。しかし彼らはすべての人が最も必要としている助けを与えることはできません。確かに私たちは模範としてのキリストを必要としています。しかし、それ以上に救い主としてのキリストを必要としているのです。

聖書はいたるところでキリストの再臨に言及しています。新約聖書だけでも何百回も再臨に言及しています。弟子たちはキリストの再臨によって力づけられてきました。再臨が私たちの信仰にとっていかに重要であるかを考えるなら当然のことです。

NOTE

「^{おおかみ}狼は小羊と共に宿り／^{ひょう}豹は子山羊と共に伏す。／子牛は^{わかじし}若獅子と共に育ち／小さい子供がそれらを導く」(イザ 11:6)。

初代教会以来、キリスト再臨の約束は、他の何にもまして忠実な信仰者たちの心の支えでした。迫害の時代にあっても、彼らにはキリスト再臨の望みと約束がありました。

キリスト再臨の約束は何によって知ることができるでしょう。こずえを渡る風は再臨の約束をささやきはしません。夜空の星々も長年待ち望んできた再臨を告げてはくれません。朝、窓の外でさえずる小鳥たちも再臨を教えてはくれません。私たちが再臨の約束について知るのには聖書にある神の言葉によってのみです。再臨の約束に対する確信は直接、神の御言葉に対する確信とつながっています。ですから私たちはどんなときにも聖書の権威と靈感に対する確信を失ってはなりません。ひとたびこの権威が失われるとき、キリストと再臨に対する私たちの希望も失われます。御言葉は約束を与えてくれます。御言葉が失われるとき、約束も失われます。

問1 次の聖句はどのような約束を与えていますか。

Ⅰ テサ 4：14～18 _____

ヨハ 14：1～4 _____

Ⅰ コリ 15：50～53 _____

イザ 25：8 _____

キリスト再臨についての聖書の約束がなければ、私たちには希望がありません。私たちが生き、苦しみ、悲しみ、死ぬのは何のためでしょうか。もしキリストが雲に囲まれて再臨し、聖なる者たちに不死を与え、彼らと永遠に住んでくださらないとすれば、私たちには何の希望もありません。

◆ 天国や永遠の命についての信仰は人間の考え出したもの、この世での慰めに過ぎないと言う人たちがいます。どのように返事をしたらいいのでしょうか。

火曜日

約束を信じる理由

9月25日

「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい」(Iペト3:15)。

NOTE

初臨と同様に、再臨も信仰によって受け取るべきものです。信仰とは「見えない事実を確認すること」です(ヘブ11:1)。目に見える事実なら、信仰は必要ではありません。しかし「見えない事実」を信じるとは、盲目的に信じることはありません。神は私たちに、今は「見えない」約束であっても信じるに十分な根拠を与えておられます。ダニエル書2章はその根拠の一つです。

問1 ダニエル書2章にある第6の王国を考えてください。

ダニエル書2章で、神は何と教えておられるのでしょうか。預言されたとおり、バビロンが興り、滅びました。預言されたとおり、メディア・ペルシアやギリシアが興り、滅びました。預言されたとおり、異教ローマが興り、滅びました。預言されたとおり、分裂した現代のヨーロッパ諸国がローマから出現します。最後に、神が再臨の後に建設される最後の王国が出現します。「この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます」(ダニ2:44)。

キリストがお生まれになる500年以上も前に、ダニエルは最初の5つの王国を正しく預言しました。彼の完全な預言は、最後の1つの王国についても信頼に値するだけの十分な理由を与えてくれます。まだ実現していないのはこの王国だけで、キリスト再臨において建設される王国です。聖書と歴史の事実を考えるなら、最後の王国を信じることはきわめて論理的で、合理的なことでしょう。

◆ ヘレナはまだ信仰を持ったばかりです。彼女の信仰はときどき大きく揺らぐことがあります。預言とその成就の事例を通して彼女の信仰を強めてあげてください。

NOTE

1982年4月、世界（ニューヨーク、ロンドン、ローマ、エルサレム、クウェート）の主要な新聞の1ページ全面を使った広告が掲載されました。見出しには「キリストが再臨された」と書かれていました。広告にはさらに、キリストが再臨し、今は某都市に住んでいて、やがて世界にご自身を現されると書かれていました。

キリストが再臨されたという主張はこれに限られたものではありません。キリスト教の歴史は、自分が再臨のキリストであると主張する人々であふれています。残念なことに、どの場合にも多くの人がそれを信じてしまったことです。

問1 1982年よりずっと以前に、イエスはマタイ24：23で偽キリストについて警告しています。次の聖句は再臨の方法を教えています。

マタ24：24～31 _____

使徒1：11 _____

Ⅰテサ4：16、17 _____

黙示19：20、21 _____

こうした聖句が与えられているのに、多くの人々が偽キリストに簡単にだまされてしまうことが不思議です。キリストが再臨されるとき、死人が復活し、すべての人が再臨のキリストを目撃し、悪人が滅ぼされます。これは決してひそかな出来事ではありません。唯一の安全策は聖書の教えをしっかりと信じ、従うことです。神の御言葉に従うとき、私たちは多くの人々を欺く様々な惑わしから守られます。

◆ イエスの再臨と同時に、地上の千年期が始まり、イエスはエルサレムから世界を支配されると信じている人たちがいます。この考え方はどんな点で誤っていますか。

自分がメシア、キリストと称する指導者、偽宗教が現存します。どうして人はこうした“偽”にだまされるのでしょうか。救出のために働いておられる方々を覚えて祈りましょう。

木曜日

再臨の結果

9月27日

「主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は激しい音をたてながら消えうせ、自然界の諸要素は熱に熔け尽くし、地とそこで造り出されたものは暴^{あば}かれてしまいます」（Ⅱペト3:10）。

NOTE

イエスは地球を修繕するメッセージを帯びて再臨されるのではありません。彼は現在あるものを繕い、ふさぎ、塗り替えるために来られるのではありません。修繕し、改造し、修復するために来られるのではありません。この地球は廃物利用するには傷みすぎています。むしろ、それは全面的に創り直す必要があります。修繕するだけではだめです。完全に壊れてしまっているのです。

問1 ダニエル2:35によると、キリストの王国が建設されるとき、それまでのすべての地上の王国は砕かれて「もみ殻^{がら}のようになり、風に吹き払われ、跡形もなくなりました」とあります（英文ではno place）。どんな意味があると思いますか。神が建てられる新しいみ国はどのような性質、性格があると教えていると思いますか（イザ65:17、66:22、Ⅱペト3:13、黙示21:1参照）。

キリスト再臨の結果、すべてが一新され、全く新しい世界が出現します（千年期の後）。このことは現在の世界について何かを教えてください。罪に汚染されたこの世界とは異なり、キリストの王国には罪の跡形もないということです。罪の痕跡、罪の暗示、罪の入り込む余地は全くありません。私たちが神によってあがなわれ、神の永遠の御国に入るとき、罪深い過去との関係、つながりは一切断ち切られ、永遠に根絶されます。イエスの苦難の傷跡だけが永遠に残るのです（『各時代の大争闘』下巻462ページ参照）。

◆ キリスト再臨の最終的な結果はこの世界に対する見方についてどんなことを教えていますか。今の私たちの愛情、願望、財産、希望は何に向けられるべきですか。

NOTE

私どものために主が初臨でなされたことは再臨においてなされることの確証でした。今は信仰をもって再臨を望んでいます、この約束は確実です。聖書を堅く信じる人は再臨の有様、結果についてしっかりとした土台の上に信仰を築いているので、偽キリストにだまされることはありません。

 もっと深く学びたい方へ

『各時代の争闘』下巻 40 章（神の民の救出）、『終わりの日の諸事件』（英文）271～282 ページ（キリストの再臨）を読んでください。黙示録 21、22 章を読んでください。

「ああ、イエスにお会いし、あがなわれた者として迎えらることは何と光栄なことでしょう！ 私たちは長く待ち望んできましたが、望みを捨ててはなりません。麗しい王にお会いすることさえできれば、私たちは永遠に祝福されるのです。私は大声で『故郷に帰るのだ！』と叫ばずにはいられません。……

その日、あがなわれた者たちは父なる神と御子の栄光に照らされます。天使たちは黄金の豎琴をかき鳴らして、王と王の戦利品、すなわち小羊の血で洗われて白くされた者たちを迎えます。勝利の歌が鳴り響き、全天に満ち、キリストは勝利されました。彼はあがなわれた者たち、すなわちその苦難と犠牲のメッセージが無駄でなかったことの証人たちに伴われて、天の宮廷にお入りになります」（『終わりの日の諸事件』280、281 ページ）。

「初臨におけるキリストのあがないの業、天と地における彼の働き、彼の主権に対する要求は、それらを完成し、確立するために地上に帰ることを必要とする。そうでなければ、キリストの生涯と教えは無意味なものとなる。恵みによって救われた罪人を再び集めるために来られないなら、キリストの十字架上の苦しみと死は無駄になる。眠っている者たちのために再び行使されることがなければ、死に対する輝かしい力による彼の復活は無益となる。これらのことはすべて再臨を必要とする。キリストは再臨して、失われた王国を回復する働きを完成される。初臨は再臨を確実なものとする」（アロンソ・J・ワーナー『聖書教理の基礎』158 ページ）。

ミニガイド

【内村鑑三と再臨信仰】

ホーリネスの中田重治、組合派の木村清松、そして内村鑑三の3人は大正7年、神田青年会館で預言研究講演会を開き、キリスト再臨を説いています。「聖書を読むとキリスト再臨が諸処に記してある。聖書は旧新約にわたってキリストの再臨を示せる聖句が数多ある」と語り、その後全国を講演して歩いています。

彼の再臨信仰には体験としての強い背景がありました。娘ルツ子の死です。病床に伏す愛嬢のために夫婦は熱心に祈りましたが、聴かれず、大きな打撃を受けました。臨終近く最後の聖餐式を行った後、彼女は、「感謝、感謝、お父様、お母様、もう往きます」と言って19歳の生涯を終わりました。内村は告別式を自ら行い、埋葬式では土を握り「ルツ子さん、万歳」と叫んだのでした。

そこに入信して間もない一高生矢内原忠雄がいました。しばらくのち、内村が友人に宛てた手紙に、「われらは必ず愛する者と再会すべく候。この世もかの世も同じ愛の神の支配なれば、われらは決して失望すべきにあらずと信じ申し候」と書いています。

【エレン・ホワイトと長男の死】

長男ヘンリーは結核のために亡くなりました。両親にとって悲しい出来事でしたが、子どもを亡くした信者さんに送った手紙の中にその時の思い出が書かれています。

「私の長男は16歳で病気になりました。快復の見込みはなく、私たちは病床に呼ばれました。『お父さん、お母さん。子どもと別れるのはどんなに苦しいことかと思えます。もし主がいのちを支えてくだされば、両親のために私は喜びます。今いのちが閉じられることが主のみ旨であれば、私は神に対して“心安し”と言うことができます。どうぞ御心が行われるようにお祈りください』。私たちは祈りましたが、快復するとの確証は得られませんでした。彼は救い主イエスに信頼して眠りにつきました。彼の死は嘆きではありましたが、死に勝利したのです。

あなたは幼子の救いについて心配しておられますが、どうぞ主に信頼してください。私たちは天のみ国で必ず子どもたちに会うことができます。主に信頼し、決して心配しないでください」。

『セレクトッド・メッセージ』2巻にはこの他に4男ハワード（3か月）、嫁メリー、夫ジェームズなどの死に直面したエレンの深い悲しみが読みとれます。同時に、妻を亡くした牧師、未亡人となった友人などへの慰めと励ましの手紙が多く記録されています。

●やさしい聖書入門シリーズ

1 GRACE (グレイス)

2 JOY (ジョイ)

3 PEACE (ピース)

4 LOVE (ラブ)

おかげさまで、
大好評！

B 5判 108 ページ

価 格 500 円 (税込み)

「もっと気軽に聖書研究がしたい」。そんな声に応えるテキストができました。

SDA教会の教理、信仰生活の基本が学べます。クリスチャンになったばかりの人、聖書研究、個人での学びなどいろいろな場面で用いてください。



●小学校上級用

「イエスさまといっしょ」

B 5判 80 ページ

今期から新しくなります。世界総会発行教課の翻訳物。聖書の順番に関係なく、テーマごとに聖書を学びます。

教師用ガイド、暗唱聖句カードもあります。

初等科教課が
変わります

キッズフレンズ

B 5判 320 ページ

定 価 840 円 (税込み)

PFC、三育小学校、教会での子ども礼拝から野外の集会、キャンプファイヤー、さまざまな場面で使える子ども用歌集ができあがりました。子どもたちといっしょに歌ってください。



☆お申し込みは、各教会の書籍係までお願いします。

私の伝道活動報告

2001年3期 ☐大人 ☐青年 (30歳まで)

項 目	週												
	1 7/7	2 7/14	3 7/21	4 7/28	5 8/4	6 8/11	7 8/18	8 8/25	9 9/1	10 9/8	11 9/15	12 9/22	13 9/29
1. 文書配布数 (トラクト・チラシ・雑誌・本)													
2. 授けた聖書研究数 (安息日学校クラスも含む)													
3. 講演会、講習会、訪問伝道、 チラシ・トラクト配布、奉仕 活動などに参加した数													

◎統計上ぜひ必要ですので、期末に信徒伝道会役員に必ずご提出ください。

2001 年度 日没表

	札幌	仙台	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島	沖縄
7 / 6	7 : 16	7 : 03	7 : 00	7 : 10	7 : 14	7 : 26	7 : 32	7 : 26	7 : 25
13	7 : 13	7 : 00	6 : 58	7 : 08	7 : 13	7 : 24	7 : 30	7 : 25	7 : 24
20	7 : 09	6 : 57	6 : 55	7 : 05	7 : 10	7 : 21	7 : 27	7 : 22	7 : 23
27	7 : 02	6 : 51	6 : 50	7 : 00	7 : 05	7 : 16	7 : 23	7 : 18	7 : 19
8 / 3	6 : 54	6 : 45	6 : 44	6 : 54	6 : 59	7 : 10	7 : 17	7 : 13	7 : 14
10	6 : 46	6 : 38	6 : 37	6 : 48	6 : 53	7 : 04	7 : 11	7 : 07	7 : 10
17	6 : 36	6 : 29	6 : 29	6 : 40	6 : 46	6 : 56	7 : 03	7 : 00	7 : 04
24	6 : 25	6 : 19	6 : 21	6 : 31	6 : 36	6 : 48	6 : 55	6 : 52	6 : 58
31	6 : 13	6 : 09	6 : 11	6 : 22	6 : 27	6 : 39	6 : 46	6 : 44	6 : 51
9 / 7	6 : 01	5 : 58	6 : 01	6 : 12	6 : 17	6 : 29	6 : 37	6 : 35	6 : 44
14	5 : 48	5 : 48	5 : 51	6 : 03	6 : 08	6 : 20	6 : 28	6 : 26	6 : 36
21	5 : 36	5 : 37	5 : 41	5 : 52	5 : 58	6 : 10	6 : 18	6 : 17	6 : 28
28	5 : 23	5 : 26	5 : 31	5 : 42	5 : 48	6 : 00	6 : 08	6 : 08	6 : 20

2001 年第 4 期研究予告

総題 「アモス書」(主を求めて、生きよ)

第 1 課 預言者でない預言者

日 預言者でない預言者 (アモス 1 : 1、7 : 14)

月 現代と似た時代

火 政治的背景 (列王記上 12 : 25 ~ 33)

水 アモスのたとえ (アモス 8 : 1)

木 「定められたこと」を示される主

〈著者〉レオ・R・バンドルソン
(元牧師、教師、編集者)

